

リマサリの発売 投稿者: little scientist 投稿日: 2006年7月7日(金)13時53分24秒

お待たせしました。本日七夕で大安につき、リマサリの発売日といたしました。
第1弾はスカルプクレンジング 250ml、ヘアトリートメント 250ml、ヘアジャムウ(頭皮料)、
オイルエッセンス3種類(ヴァータ、ピッタ、カパ) 30mlです。
下のページをご参考ください。

<http://www.wakuwakuseed.com/top01.html>

シモちゃんの裏メニュー3 投稿者: noum 投稿日: 2006年7月5日(水)11時12分36秒

お待たせしました。
シモちゃんから裏メニュー第3弾が届きました。今回はホット系パーマ(デジパー)です。
どうして結果がでるのか?なんてヤボな質問は研究者のたわごと…。現場で何度も試して結果がでるということが大切。私も頭でっかちにならないように精進しなければ…。
下にページを載せました。

<http://www.wakuwakuseed.com/newpage49.html>

追記 投稿者: noum 投稿日: 2006年7月5日(水)10時13分7秒

前のお茶パックのところで、「シャンプーした髪をドライヤーで乾かします。髪全体にお茶を十分にスプレーしてしっかり揉みこみます。そのままラップをせずに遠赤などで加温10分」と書きました。

先ほどお問い合わせで

「ゆかりさんの返事では、ラップ遠赤10分後、ハーフドライと書いてあったけど…」というメールが入りましたので、追記しておきますね。

ご指摘の通り、ラップ遠赤10分後、ハーフドライが良いと思います。

ラップをせずに遠赤10分によって、徐々にハーフドライのようになるので、トイブーさんに書いた方法でも効果は出ると思います。しかし、蒸すということを考えるとラップ遠赤のほうが理論的には正解です。ご指摘有難うございます。

トイブーさんと同じような悩みは結構多くて、関心が本当に高いようです。実験室で毛束を使ってダメージヘアを作るのですが、本当にお見えになるお客さんのスーパーダメージ毛はなかなか作れないのです。そんな毛をバシって切ることがあったら研究に使用させてくださいね。他のメーカーさんのものでうまくいくのであれば、それも近道ですのでご紹介ください。また、皆さんの解決法も教えてくださいね。

トイブーさんへ 投稿者: noum 投稿日: 2006年7月4日(火)22時21分34秒

ハイダメージでクセ毛の方で2~3日でトリートメントが落ちてしまうということは、相当に内部が親水化してますね。これは超親水毛と言ったほうがよいです。髪に疎水性の場所がほとんどない髪です。ソニルGAも使わないほうが良いですよ。溶けちゃうかもしれないね。

ウエーブがかかっていることから、まず髪を疎水にする方法としてお茶のポリフェノールを使う裏技をやってみましょう(ゆかりさんのBBSでもでしたが…)。

ヤカンでお湯を沸騰させてお茶の葉を入れます。そのままよく煮出してください。黒くまるまで煮出すと、お茶からシブ(タンニン)を抽出することができます。そのお茶を流水につけて肌温まで冷まします。それをスプレーヤーに入れて準備OKです。シブが沈む前に使用します。

シャンプーした髪をドライヤーで乾かします。髪全体にお茶を十分にスプレーしてしっかり揉

みこみます。そのままラップをせずに遠赤などで加温 10 分。それから 3 種 3 倍希釈を全体にしっかりとつけて、しっかりと揉み込みます。さらに加温 10 分。圧縮蒸気でも良いです。そしてドライヤーで 50%ドライします。

今回は強めにトリートメントを残す方法を行いましょ。全体にベータレイヤーミストをとけてなじませます。その上に特トリを均一につけて手でよく握りこみます。量は 10 から 12 g 程度でしょうか。

ダメージがひどい髪は、なかなかネチャっという感触が出てこないのですが、よく揉みこんでいると髪にしみ感がでできます。そこで放置時間や加温をすれば重みがでできます。好みで時間や加温を入れても良いです。今回はお茶パックをしているので、おそらく出てくると思います。

通常はここで軽くお流しをします。お流しをした場合、髪がきしむ感触が残っていれば、すべらないオイルが髪に残ったという意味です。きしむ感触が少ない場合は、水を切った後でシャンプー一台で特トリを少量髪につけて全体にのばして、そのままタオルドライします。良く水気を拭き取ったほうが良いですね。そこにいきいき、ヘマヘマ、キトキトと均等につけて、ドライヤーで 50%ドライ、トイトリにマネージャーの裏技オイルを 10%混ぜたトリートメントを刷毛でぬって、蒸気加温 10~20 分、お流し、トイトリ、キトキトチェンジリンス、お流し、アジアンムーン、仕上げとなります。

アイロンが大丈夫ならば、蒸気加温 10~20 分した髪をタオルで表面のトリートメントを拭き取り、ドライヤーで 70%程度までドライして 80~90 度のアイロンでスルーします。あとはお流しと続きます。アイロンを入れたほうが結果は良くなります。

アイロンを入れられない場合でもパルッキーなどの圧縮蒸気やマイナスイオンドライヤーを使ってツインブラシと並行させるようにゆっくりと髪の温度を 80 度近くまで上げるように流しても良いです。これは、トイトリートメントに含まれるバター成分（室温では固まっているが 80 度ぐらいで溶けて、冷やすとまた固まる成分）が髪にしみこむために、トリートメントが残りやすくなるのです。頑張ってくださいね。応援しています。

また、前にも書きましたが、失敗しないマニュアルでは特トリのあとで、必ずお流しをするように書いていますが、お流しを省いて連続して PPT、ヘマヘマ、キトキト、トイトリ（プラス裏技）と進む方法もあります。

その場合は、ダメージが中ぐらいでトリートメントやカラーが残りやすい人であれば、特トリの量は 1.5~3 g 程度で良いです。

お返事ありがとうございます 投稿者: **トイプー** 投稿日: 2006 年 7 月 4 日(火)10 時 17 分 19 秒

おはようございます。お返事いただいてから、試していますがなかなか納得いく仕上がりになりません (T T) ハホニコのラメラメ以上の仕上がりになりたいのですが・・・アドバイスいただいたマニュアルを忠実にしていますが、以前よりは改善しましたがまだまひとつという感じです。ミドルダメージの方は、仕上がりが良いのですが、ハイダメージの超撥水毛でクセ毛の方は 2~3 日でトリートメント効果がいきなり切れてしまいます。先生助けてください！裏技ってありますか？CA を使うのも検討しましたが毛先にウエーブがかかっている人もいたので CA を使わなくても出来る方法教えて下さい

トイプーさんへ 投稿者: noum 投稿日: 2006 年 7 月 2 日(日)10 時 02 分 59 秒

こんにちは。トリートメントで艶はでるけど効きが悪い悩みですね。

まず、今回のケースを考えて見ましょう。艶がでるのは、カラー剤に混ぜたすべるオイルの裏技オイルの効果です。問題は手触りと持ちですね。おそらくすべらないオイルである特トリなどの CMC とのバランスが悪いようです。

お客様の髪質はトリートメントの持ちが悪いということから、ダメージがすすんで CMC も内部のケラチンも相当少なくなった髪だと思えます。そのような髪は色やトリートメント剤が乗る

場所が少ないために、シャンプー等で簡単に色やトリートメント剤が取れてしまう髪です。脂が多い撥水の髪ではないようです。

脂が多い、あるいはキューティクルがラップのようにくっついている老人性白髪の場合は、浸透促進原液が効果を示しますが、今回の場合は、傷んでキューティクルも少ない髪と思われるので、浸透促進原液が強く効きすぎて、カラーのアルカリダメージで風合いが悪くなっていると思います。まず、髪に水をスプレーして、はじく髪であれば浸透促進を用いる、すぐ吸ってしまう髪であれば、浸透促進する必要がないと判断しましょう。定期的にカラーやパーマをしているお客様なら根元は使い、毛先は使わないというケースが多いと思います。今回はまず使わないで練習して、満足できる風合いを作れるようになったら、浸透促進も考えて見ましょう。（新生毛や白髪の場合は使ってくださいね）

次に3種混合原液はトリートメントが乗らないダメージ髪には3倍を用いたほうが良いです。もし、色がすぐ落ちてしまう髪であれば、以前にも書きましたがお茶パックが効果的です。ゆかりさんとのやり取りをご参考にしてください。

シャンプー後によく水分をタオルでふき取り、3種混合液3倍希釈液を均一につけます。おそらくダメージが強い場合は、GMC自体が不足しているために3種も広げにくいと思いますので、3種混合原液とベータレイヤーミストを1：2で混ぜたものを用意して、それを泡状で出るフォーマーポンプ容器に入れて泡にして使うか、スプレー容器に入れてミスト状で使うかの方法で、よく水気をふき取った髪にコーミングや揉みこみをしながらつけましょう。下にぼたぼた落ちない程度でいいです。毛先は特に揉みこんでくださいね。

ダメージで吸水しやすい髪であれば、ここでキトキト10倍を全体にスプレーして均一に揉みこみしておくでキューティクルの保護にもなります。ダメージが少なければ省くこともできます。キトキトが終わったら、ここで全体に薄くトイトリを付けてください。コーミングして髪にトリートメント剤をなじませましょう。慣れてきたら、ダメージの部分に特トリをさらに乗せるテクニック（重みをつける）を試してください。最初はトイトリまでで結構です。

ここでラップして加温してください。スチーマーも良いのですが、水気が少ない圧縮蒸気のほうが良いです。

さて、カラー施術に入ります。ダメージが大きい髪であるのでタオルで表面の水気を吸い取って、ウェットで塗布します。ダメージ部分とダメージが少ない部分はカラーのアルカリの強さや2剤の過酸化水素の濃度に気をつけて塗布してくださいね。

カラー剤には、まず1剤に裏技オイル1プッシュと持っていればカラープロモーションを1スポイトいれます。そして2剤を混ぜます。

最初のカラーチェックをするときに、特トリを根元付近のダメージが少なく重くしたくない場所を避けて、ダメージ箇所によく混ぜ込みます。特トリはカラー剤に混ぜても良いのですが、ダメージの少ない箇所は重くなるために避けたいために、カラーチェック前のある程度色が入ったときに、ダメージ箇所のみにつけるほうが良いと思います。手でもみいれてください。カラーの加温は髪が相当ダメージを持ちますので、トリートメントのもちが悪くなった人の場合は、よりトリートメントの持ちが悪くなりますので加温はやめましょうね。

そしてカラーチェックOKであれば、乳化に入りましょう。風合改良のシードもさらさらシードか、いきいきシードのような高分子ケラチンが入ったタイプのほうが良いと思います。そのほうがトリートメントがもつようになります。ヘマヘマを足すのも良いですね。ダメージがひどい髪であればベータレイヤーミスト：さらさらを4：1にヘマヘマをウーロン茶ぐらい足したものを全体につけて、こねるように乳化するのも簡単で良い結果を出します。

そして3分ぐらい置いたら、そのまま洗い流さないでキトキト10倍液を溜めておいてチェンジリンスにながらしっかり乳化します。

あとはしっかりお流し、トイシャン1回、トイトリを軽くつけてお流しでよいです。頑張ってくださいね。まずは基本で、そのあとは応用です。特に特トリの量は自分が考えるよりも少な

くしましょう。3~6mlから始めます。多くつけると効果がアップすると思いますが、適量を超えると風合いが悪くなりますよ。

うまくいきません 投稿者:トイプー 投稿日:2006年7月1日(土)16時42分17秒

ご無沙汰しています。先月は講習して頂きありがとうございました。早速購入して、色々試行錯誤しながら試していますが、ヘアーカラー&トリートメントの施術がうまくいきません。ワンシャンした後に、浸透促進原液5倍+3種混合5倍+ベーターレイヤーミスト+毛先にマネージャーの特トリ+スチーマーで10分加温 カラー塗布(マネージャーの裏技1プッシュ) 放置(加温10分+自然10分) しっかりとシード5倍希釈+ヘマヘマ1.5倍希釈 放置3分 キトキト1.0倍希釈でチェンジリンス シャンプー2シャン トイトイ
と言う工程でしていますが 仕上がりがいまいちなのです どこか施術が間違っているのでしょうか? 艶は出るのですが、手触りと持ちが悪く悩んでいます
うちのお客様は撥水毛の方が多くてトリートメントの効きが悪く悩んでいます
いいアドバイスをお願いします

福山の虎さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月29日(木)10時38分44秒

BBSへのご参加ありがとうございます。
スピエラはオイル系の還元剤です。還元力も強いわけではありませんので、ダメージがある程度あるような髪であればウエーブはOKですが、新生毛には不適合です。したがって、ダメージがひどい人はパーマでガサガサになりやすいですから、オイルの手触りが加わるスピエラは向いています。
したがって、TP0(適した人に適切に使用する)を考えて、使うお客様を選ばなくてはなりませんね。メーカーさんもきちっとサロンさんにデメリットをお伝えしなければいけません。

メリットはメーカーさんから山ほど聞いていると思いますので、ここでは省きますね。

オイル系ということは、後から水系のものを入れても髪に浸透しにくいということを意味しています。逆に前処理でPPTをつけてウエットで塗ることも効果を落とします。また、中間にPPTを用いたりして風合い改良することにも向きません。シンプルにスピエラだけでウエーブを形成するのに適しています。

スピエラは1剤と2剤を混ぜたときから分解が始まり、還元力がでてきます。メーカーさんは混ぜてから使用できる時間を言っていると思いますが、決して数時間も置けるものではないと思います。還元力が残っているということと、効果がある還元力とは異なりますからね。また、オイルの特徴として、臭いが部屋の壁紙などに残りやすいということですね。タバコと同じです。換気をよくしておくことは大切です。

(無題) 投稿者:福山の虎 投稿日:2006年6月28日(水)21時57分27秒

ラトニオール(スピエラ)PH5.5の薬剤を使用したところ、還元が悪く、材系の薬剤PH8~9の物を直接再塗布したが、還元が思わしくなかった。スピエラの上に、弱アルカリの材系を使うと、薬剤同士が化学反応をおこしてけんかするのでしょうか?スピエラのメリット・デメリットをもっと詳しく知りたいので宜しくお願いします。

みいさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月25日(日)11時52分56秒

ケラチン以外というのはケラチンを作るための細胞(毛母細胞)が生きていくために必要なタンパク質です。細胞の形を維持するためのタンパク質やユビキノ、呼吸や生命維持のために用いる酵素、そしてケラチンを作るための酵素など多くのタンパク質があるのですよ。

なかなかイメージするのが難しいのですが、例えるのであれば、魚のシャケを思い浮かべてください。

シャケは川で生まれて、河をくだり海でいっぱいエサを食べて丸々と太ります。十分に大きくなると、河を登って産卵します。河を登るときには何も食わず、川の上流までくると産卵し、そこで息絶えます。卵を残すために自分を犠牲にする一生です。

髪の毛のケラチン細胞も毛母の時代に栄養をいっぱいもらってすくすく育ち、やがて角化といって自分の栄養を使って卵であるケラチンを作って、やがて力尽きて死にます。そのケラチンが髪の毛のキューティクルやコルテックスとして第2の人生を歩むわけです。

シャケの場合は卵以外のタンパク質は死骸として捨てられますが、それが微生物のエサとなり、卵が孵ったときにはその母の死骸で増えた微生物を食べて成長します。

髪はケラチンのまわりに圧縮されて捨てられるのですが、神様はエンドキューティクルという新しい役割を与えて、第2の人生を歩ませるのですね。

もともと生きていた細胞というものが、ケラチンという特殊なタンパク質を自らの命を削って製造して、死んでいくわけです。その生きていた証が残っているわけですね。

エンドキューティクルにはタンパク質以外にもミトコンドリアの死骸、DNA、核膜、ゴルジ、小包体の残骸など、生きていた証がいっぱい入っています。キューティクルにも命のドラマがあり、いとおしく思います。

(無題) 投稿者: **みい** 投稿日: 2006年6月24日(土)20時54分7秒

出張お疲れ様です。

あの、ケラチン以外のタンパク質とは具体的にどのようなものなのでしょうか？

エルさんへ 投稿者: **noum** 投稿日: 2006年6月24日(土)14時09分20秒

既染毛にカラーやブリーチをすると緑色になった件ですが、カラーに詳しいだいちちゃんに聞いたら業界でも問題になっていました。

硝酸銀や硝酸鉛が入ったクリーム状の黒染めが通販などで売られているようで、それを髪に塗ると紫外線で黒く発色するカラー剤だそうです。それを使っているお客さんに過酸化水素のカラー2剤やブリーチ剤がつくと反応して緑色に発色してしまうようです。

それをとる良い方法は分からないとのことで、その緑を補正するようにカラー剤を選ぶのが賢明とのことでした。そういえば、硝酸銀という話は岡山でもセミナーで質問された記憶がありました。硝酸銀は毒性が強いですから化粧品に使えないのでは・・・なんて答えたように思います。

濃度の問題かな？

ちなみにメーカーさんでも最近良く使用されるようになった銀や銅や白金や金のような金属が髪に蓄積された場合、パーマやカラーに影響しないとは言えないということでした。皆さんの現場で注意していないとトラブルが起こるかもと認識しておかないといけませんね。まずはお客さんに使っていないことを確認しておくことぐらいしか対策がないのかなあ。皆さんのところには情報が入っていますか？

日光で黒くなる毛染めを使っているお客さんには注意しましょうね。

みいさんへ 投稿者: **noum** 投稿日: 2006年6月24日(土)13時50分37秒

みいさん、お返事が遅くなってすみませんでした。東京出張で、今日帰ってきました。さほど天気が崩れなかったので本当に助かりました。今回は所沢でうわさの豆乳タンタン麺を食べました。濃厚なスープ・・・おいしかった。

そうそう質問でしたね。

ヘアカラーとパーマで流出するアミノ酸の種類が違うとお聞きになったわけですね。それはおそらく「パーマとカラーでは流出するタンパク質が違う」ということだと思います。実際はアミノ酸はあまり量的には出てこないのです。

「パーマとカラーでは流出するタンパク質が違う」という意味を説明する前に、まず、髪を作っているタンパク質についてお話ししましょうね。

髪は構成タンパク質はケラチンです。しかし、すべてがケラチンという種類のタンパク質というわけではないのです。えーっと思われたかもしれませんが、髪ができる過程を考えてみましょう。

髪最初の段階は細胞というものが増えるところから始まります。その細胞はやがてその中に大量のケラチンというタンパク質と作ります。そしてやがて死んでしまい、コルテックスやキューティクルという髪の組織になって残ります。実はそのケラチンを細胞が作るために、あらかじめ細胞のなかにはケラチンを作る道具をいっぱい持っているのです。家を作るにもカンナやノコギリもあれば、木を切ったあとの木くずもでるでしょう。そんなものが最終的にはケラチンの横に集められて捨てられているのです。

キューティクルのなかで、私が吸水シートと例えているエンドキューティクルや、コルテックスのなかでマクロフィブリルやメラニンのすきまにあるマクロフィブリル間マトリックスがケラチンを作ったあとのクズの捨て場所なんです。ケラチンと違って水をたくさん吸うので変だなと思っていた人もいるかもしれませんが、髪の中には、ケラチン以外のタンパク質が残っているのです。

そこで、質問に移りますね。パーマもカラーもアルカリで膨潤しますよね。アルカリの膨潤でやすいのは、前述のケラチンではない、水をよく吸うタンパク質です。カラーの場合はこのタンパク質の流出なのですが、パーマはさらにS-Sを還元剤で切ること、ケラチンの一部(ミクロフィブリル間マトリックス)の流出も起こってきます。

まとめますと、カラーはケラチンではないタンパク質、パーマはケラチンではないタンパク質とマトリックスケラチンが流出するわけですね。種類が違うというよりは、パーマのほうが余分に出るといったほうがいいですね。

3種を前処理に使われているのであれば前処理のトリートメントをパーマとカラーで変える必要はありません。むしろ、大事なカラーはCMC成分の流出がパーマより多いということです。パーマの保護はPPTを中心にCMCを少々、パーマはPPTを少々にCMCオイルをしっかりとという風に考えたほうが良いですね。

こんにちわ☆質問です 投稿者: **みい** 投稿日: 2006年6月21日(水)23時28分55秒

ヘアカラーとパーマでは流出するアミノ酸の種類が違うと聞きましたが、詳しく知りたいです。そうするとトリートメントなどのケアの仕方も違ってきますよね・・・

チャクラ カラー 投稿者: **noum** 投稿日: 2006年6月19日(月)08時47分41秒

不足するチャクラカラーは石の力で補うことがよく行われます。
パワーストーンのHPを載せておきますね。

<http://www.eyes-crystal.com/>

ゆかりさんへ 投稿者: **noum** 投稿日: 2006年6月18日(日)14時07分15秒

ゆかりさん、良かったですね。ゆかりさんの素直な気持ちが成功に導いたのですよ。私がBBSで書いてもゆかりさんに信じてもらえなければ、この成功はなかったのですからね。

質問ですね。特トリとソニルCAとβレイヤーの三つをスポイトかカップに混ぜておいて、炭化した髪に使う方法ですね。

トリートメントの粘度が浸透性を悪くする場合もありそうなので、CMCをより入れる方法として面白そうですね。比率としては、特トリ：ソニルCA：βレイヤーミストを1：3：6ぐらいでしょうか。炭化の度合いにもよりますが、特トリは10%で固定して、ソニルCAとβレイヤーミストの比率を変えれば良いと思います。なんだったら、PPTも加えても良いですね。例えば3種：特トリ：ソニルCA：βレイヤーミストを3：1：3：4というのはどうでしょうか。加温は必要ですね。圧縮蒸気も効果がありそうです。

トリートメントの後処理のヘマヘマの希釈度合いですね。5倍希釈は濡れた状態で、フォーマーポンプで泡にして出した場合です。5倍を付けすぎると、黄色っぽい色が少しくかもしませんね。スプレー等で用いる場合には10倍でよいと思います。

今こちらは7月のスカルプ商品（リマサリ）の製造真っ盛りです。ヘッドマッサージのオイルとヘアクレンジングの製造が終わり、来週はトリートメントやスカルプケアローションの予定となっています。少し懲りすぎて製造も大変ですが、もう少しで皆さんにお披露目になります。よろしくお祈りしますね。

今日は今度のリマサリのベース理論であるアーユルベータの資料を作りました。下に貼り付けておきます。7月にはスカルプケア、デトックス（リンパ、東洋医学、アーユルベータ、オーラソーマ）などの勉強会やヘッドマッサージのセミナーを開いていきたいと思っています。

資料のチャクラチェックは自分の足りないエネルギーをチェックするものです。第1から第7までのチャクラで特に不足しているエネルギーが高い点数がでます。高い点数のチャクラに該当する色のものを持つことであなたのパワーが向上すると言われています。お遊びのようですが、実は色は脳波に強い影響を与えるのですよ。それから、あなたのドーシャのチェックも載せました。1から26までの質問に対して、A、B、Cの該当数を積算します。Aがもっとも多いとヴァータ、Bが多いとピッタ、Cが多いとカパというドーシャであると判断します。今回開発したヘッドマッサージオイルは、それぞれのドーシャのトラブルをやわらげるエッセンシャルオイルが配合されていますので、お客様のドーシャの状態でおイルを選定して、ヘッドマッサージ（シロビヤンカ）をすることができます。

シロビヤンカのマッサージ方法はマッサージブックと講習会で皆さんに勉強していただく予定です。特にお急ぎの方はディーラーさんやトル・サイエンティストまでお問い合わせください。愛知県のほうで研修(合宿)も承ります。ゆかりさんもよろしくね。

<http://www.wakuwakuseed.com/ayurveda.pdf>

☆こんにちは☆報告と質問なんですが・・・ 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年6月18日(日)10時41分38秒

この間、日本茶カラーのお客様が再来店されました。白髪に近かった毛先までしっかり色が残っていました!!!手触りも良く、芯が入ったようなハリもでていました!!!お客様本人も色がしぶとく入っているのが分かったようで、日本茶カラーにビックリしていました^^ありがとうございました!!!後は色の入り具合を気を付けたいと思います☆☆

あと、質問なんですが・・・

① うちのお店で、炭化した髪の毛に有効では?というやり方を思いついたんですが、、特トリとソニルCAとβレイヤーの三つをスポイトかカップに混ぜておいて使う方法はより良い結果につながりますか???よりCMCが入っていく様な気がするんですが・・・どうでしょう?もし使うとすれば、それぞれの対比のアドバイスをお願いします☆☆

② 今パーマやトリートメントの後処理にヘマヘマ5倍を使っているのですが、もう少し薄めて使っても大丈夫でしょうか?もし薄める最低ラインがあれば教えていただきたいです☆

蛸が舞う季節ですが、夏風邪等にお気をつけて!! 失礼します<(_ _)>

きんたさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月16日(金)18時28分23秒

髪が早く伸びる方法ですね。髪の毛根に血液がよく流れるようにすればよいのです。後は、髪をつくっているアミノ酸を摂取できるように、良質のタンパク質をバランスよく食べることで。髪の毛の製造ベツトである毛乳頭はコラーゲンでできていますので、コラーゲンとビタミンCをとれば、太い髪に育ってきます。ビタミンCはタバコで分解してしまいますので、タバコを

吸う人は特にしっかりとらないといけません。

それから睡眠はとても大切です。寝る時間が特に大切です。10時から2時には寝ていると良い髪が育ちます。というのは髪を作るホルモンが体で作られる時間が決まっており、10時から2時というのは黄金の時間といって、ホルモンがもっともよく作られる時間だからですよ。ただ、寝ていないと作れないのです。

補助食品ではビタミンAやカロチンという栄養素は髪の成長を早くしますよ。毛乳頭の血流を上げるにはビタミンEが良いです。コンビニでも売っています。

頭の血行を良くするツボの話も付け加えておきます。

ズイというツボが毛の成長を助けると言われています。ちょうど、剃り込みしたあんちゃんの剃り込みの頂点、抑えると少しズーンとする場所です。それから百会。右の耳と左の耳を結んだ線と鼻からまっすぐ頭頂にのばした線の交差するところ、つまり頭のてっぺんで、少し凹んでいる場所です。親指でググッと押しましょう。

でも、結局は頭皮が緩んで硬くなっていないことが一番大切です。両手を耳の上に置き、手の腹で頭の横を力を入れて押さえ、グッと上方に持ち上げてみましょう。それから下から上に向かって頭皮を頭蓋骨からはがすように、指の腹で円を描きながら揉みほぐします。頭が軽くなったでしょう？これを毎日朝と夜に行えば、毛根がしっかりしていれば髪は早く生えてきますよ。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

エルさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月16日(金)17時59分24秒

既染部にオイルを塗布してもカラー剤に混ぜた場合でも同じです。テモイオイルはカラー剤に混ぜるんでしたね。ごめんなさい。

問題は残留した染料分解物や金属はなかなかシャンプーでもおちないものです。金属はキレート剤や酸で落ちる場合（金属の種類にもよりますが・・・）もあるのですが、以前、私が経験した髪は茶色から緑のわかめのようなになったので、シャンプーをしっかりとしてから同じことをしましたが、やっぱりわかめになりました。シャンプー程度ではダメでした。パーマ1剤をつけ、少し軟化させてながすことも考えられますが・・・。

セミナーで時々緑色の毛についての質問を受けますが、解決方法はわかりません。共通点は緑色です。私もそのなぞの原因を知りたいので、BBSの皆さん、このようなケースの髪の情報を持っています。エルさんもそのお客さんの髪の履歴が分かれば教えてくださいね。経緯が分かれば良い方法が見つかるかもしれません。エルさん、興味深い質問をありがとうございます。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

髪 投稿者:きんた 投稿日:2006年6月16日(金)16時27分29秒

どうやったら髪が早く伸びるのでしょうか？

ありがとうございました 投稿者:エル 投稿日:2006年6月16日(金)15時52分0秒

軽くシャンプーしてからカラーに入ればよかったのでしょうか？ちなみに既染部にオイルを塗布したのではなくてカラー剤に混ぜたのですが同じことですか？

<http://www.ele-nb.beauty-parlor.jp/>

エルさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月16日(金)15時08分15秒

はじめまして。DoAQUSHさんは私たちリトルサイエンティストの兄弟会社です。御ひいきにお願いしますね。

既染部にテモイオイルを塗布したあとでカラーをしたらオレンジブラウンが緑色に仕上がったのですね。

原因は想像になりますが、カラーの発色のしくみから考えましょう。カラー1剤は染料中間体という物質とカプラーという物質が入っており、2剤の過酸化水素と触れると重合を開始して、大きなかたまりに変わっていくなかで色を作っていきます。染料中間体はジアミンに代表されるもので、重合した場合茶色から黒っぽい色となります。そのジアミンにカプラーと呼ばれる物質を何種類か混ぜていくと、グレー、グリーン、ブルー、オレンジなどのダル系ではない色が生まれます。したがって、例えばレッドとブルーの系統のカラー1剤を混ぜると単純にはパープルになるように思いますが、重合による発色は単純に中間の色にはならないで、まったく予想できない色、例えばグリーンとかになってしまうこともあるのです。

そこで、今回のケースを考えてみましょう。

まず、テモイオイルのことを話しておきましょう。テモイオイルは当然数種類のオイルからできていますが、カラーの重合に使われてしまうカプラーのような発色成分は含まれていないのです。カプラーの役割を持つ構造とは、芳香環（亀の甲のような構造）を持っていることが重要ですが、テモイオイルはそのような成分は配合されていませんので、これが原因ではなさそうです。

次にお客様の既染部の履歴です。よく聞く報告から言うと、この髪に残留している色素の分解したものや金属が原因になることが多いですね。つまり、お客様の既染部に色が残っていないように見える場合でも、実は例えばパーマの還元剤や紫外線などで分解して無色になった残留物があります。そのような残留物が新たに塗布されたカラー剤と再度重合して、違う色を作ってしまうことが多々あります。以前、サロンの方からいただいたダメージ毛（カラーが落ちた状態）を使って、ブリーチの試験をしたときに、過酸化水素液に浸しただけで、明るい茶色の髪がグリーンになったことがあります。その方はかつてカラーした髪に次にストレートをした髪だったそうで、カラー剤がストレートの還元剤で分解して、その分解した色素が残っていたのだと考えられました。この色素が過酸化水素とアルカリを含むブリーチ剤で発色したわけです。

もう1つの可能性は金属です。最近では銀や金や白金や銅などのナノ化された液が美容にも使われるようになりました。この金属もカラーの重合反応には変なことをする可能性があります。したがって、ナノ化された金属も原因の1つになりますね。それぐらいが原因になる要因です。オイルは心配ないですよ。安心してお使いください。

パーマの中間処理で1液タイム放置後ペペット→酸リンス→2液（ブロム）の順番で正解です。酸リンス→ペペットの順だと、ペペットに含まれるPPTもヘマチンも力を発揮できなくなりますので、この順番が正しいですね。ただし、2液が過酸化水素であれば、ペペット→過酸化水素2剤→酸リンスの順となります。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

はじめまして 投稿者:エル 投稿日:2006年6月16日(金)11時55分35秒

最近DoAQUSH(どうあくしゅ)というメーカーを最近使い始めました。野村先生が作られたと聞き質問させていただき、以前カラー剤(微アルカリカラー剤オレンジブラウン8レベル)にtemoiオイルを(10%程度)混ぜて既染部(10レベルオレンジブラウン)に塗布したところ

緑色に仕上がりました、なぜ緑になったのですか?メーカーの方に聞いたところなかなかいい返事をもらえません、シャンプーの前にすでに緑になっていたのにオイルが、原因としか思えません、どうしても納得がいきません今後のためにも原因を知りたいのですが・・・

あともう一点、パーマの中間処理で1液タイム放置後ペペット→酸リンス→2液と言う順番で

塗布していますがペペットと酸リンスの順番はこれでいいのでしょうか？（ペペットの後5分放置しています）よろしくお願いします。

<http://www.ele-nb.beauty-parlor.jp/>

亜鉛さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月15日(木)12時44分51秒

これからもよろしくお願いします。今日も一日笑顔で仕事に遊びに頑張りましょう！
ストレスは亜鉛でふっとばせ・・・ですね。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

材料担当さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月15日(木)12時43分9秒

リジンというアミノ酸は分子量146ぐらい（システインより少し大きいかな）のアミノ酸で側鎖に2つのアミノ基を持っています。このアミノ基がポイントです。
商品の説明に「リジンが配合されていて、これが毛髪たんぱく質に付着し、アミノ酸残基が別のアミノ酸残基と共有結合することで、S-S結合の再架橋と同様の効果をもたらす。」と書かれてある意味を説明しましょうね。

アルカリによってできるランチオニン架橋についてご存知ですか？BBSでも以前に質問がありました。強いアルカリによって S-S 結合が切れて、デヒドロアラニンというアミノ酸ができます。このデヒドロアラニンは反応性が強く、近くにある他のアミノ酸の側鎖と反応してしまいます。近くにあるのは S-S 結合を切った時の相手側の HS-であるシステイン。それと反応（結合）するとランチオニン架橋（-s-）ができて、パーマが次にかからない髪になりやすくなるために皆さんは気にするわけです。

では、そこにリジンというアミノ酸があったらどうなるかということ、デヒドロアラニンはリジンのアミノ基とくっつき（反応）やすい性質を持っているので、リシノアラニン架橋という橋を作って結合してしまいます。したがって、ランチオニンの生成は減ることが予想されますね。しかし、リジンにはアミノ基という手が2つあるために、さらにその横にデヒドロアラニンがあると、残ったアミノ基も結合してしまうために、結局はランチオニンと同様な S-S 結合ではない架橋を作ることになり、それが髪の毛の中に多くできてしまえば、そのときのウエーブやストレートは大丈夫ですが、S-S 以外の架橋がウエーブの形を作っている場合は、次のパーマがかからなくなる危険性もあります。

ただし、そのパーマ液に含まれるリジンの配合量はそれほど大量でなければ、次のパーマがかからないというところまでは行かないと思います。施術すればするほど髪が蘇るっていう表現は変ですが、リジンそのものは髪の立体構造をしっかりさせるアミノ酸ですので、そのもの自体が髪を引き締めてよい髪になるのでしょうか。あまり、架橋（共有結合）の話をしすぎると、どこかでランチオニンと同じものをつくって大丈夫？という単純な疑問とぶつかってしまうため、矛盾で説明が複雑になりますね。使用して繰り返しパーマがかかり、風合いも良いのであれば薬剤としての問題はないと思います。

ちなみにシステアミンのカーリングローションということですので、pHが極端に高くなければデヒドロアラニン（アルカリによってできるランチオニン結合のもと）の心配もきわめて少ないですよ。リジンのイオン結合による髪の引き締め効果（ダメージによって生まれるマイナスの電気をリジンのアミノ基のプラスが打ち消す）のほうが実際は意味があると考えます。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

ありがとうございます。 投稿者: 亜鉛です。 投稿日:2006年6月15日(木)10時10分1秒

すごくわかりやすかったです。
これからも色々質問させていただきます。

よろしくお願ひします。
今日も一日笑顔で仕事が行なわれそうです。

はじめまして。 投稿者: **材料担当** 投稿日: 2006年6月15日(木)09時57分15秒

野村先生に質問があります。
リジン配合ストレートの紹介を受けたのですが、その商品が「リジンが配合されていて、これが毛髪たんぱく質に付着し、アミノ酸残基が別のアミノ酸残基と共有結合することで、SS結合の再架橋と同様の効果をもたらす。」だから施術すればするほど髪が蘇って説明を受けたのですが、そんな事はありえるのですか？
ちなみにその商品はシステアミン2%配合の一浴式です。

亜鉛さんへ 投稿者: **noum** 投稿日: 2006年6月14日(水)08時23分54秒

ありがとうございます。最近私たちがコンサルティングをしておりますメーカーさんからの講演依頼が多くなりました。いろいろな形でBBSの皆さんとお会いでき、とてもうれしく思っています。しっかり基本を身につけることはスキルアップに直結します。どんなお薬も基本がわかれば使えます。よろしくお願ひしますね。

質問について書きますね。pHを急激にさげるという意味は、パーマのpH9.5、カラーのpH10近くから、強い酸リンスで急に下げることです。アルカリでブヨブヨに膨潤しているものを、強い酸につけるといっきにしぼむ(収れん)ので、キューティクルがシワシワになってしまうのです。

大事なことは、ゆっくり縮めることです。パーマの中間水洗でpH8に落ちます。これで少ししぼみ安全な状態になります。中間水洗でアルカリはそこそこ除去されていますので、酸リンスでpHを4ぐらいまで下げて、ブロム2剤(pH6)で定着させます。

過酸化水素はpH3ぐらいの液体ですが酸としての力は弱いものです。中間水洗した髪につけてもpHは弱いアルカリのままです。そこで酸リンスでpHを4に近づけます。このようにpHを下げればキューティクルはきれいに収まりますよ。

カラーはパーマよりもpHが高い(アルカリ)薬剤です。したがって、カラーのほうが注意が必要です。お流しをしてもpHは9ぐらいまでしか落ちません。このpHからpH3近くの酸リンスを不用意につけると、しわしわに収縮してしまいます。せめてpH8以下にしていけないといけません。そこで、乳化時に酸リンスで乳化するとpH8以下の弱アルカリまで落とせるのです。

カラー剤はアルカリが高いので、直接カラー剤に酸リンスを加えても、弱アルカリカラー剤でなるだけだと思います。実験方法には問題ないと思います。ただ、うまく混ぜないと乳化物と酸リンスは均一にできないので、試験紙でアルカリの乳化物のpHをはかってしまうこともあります(リトマス試験紙はアルカリで青く変わるので、うまく混ぜていないと青い色が目立って見えます)。そういう意味ではトリートメントは混ぜやすいのでpHが均一になりやすいですね。某メーカーさんのトリートメントはカラー用にpHを下げてあるのだと思います。微粒子というのはアルカリ除去に関係があるかはわかりませんが、分子量が小さい酸のほうが髪にしみこみやすいため、髪の内pHが下がりやすいです。酢酸やクリコール酸は小さい酸です。乳酸やクエン酸、リンゴ酸は中ぐらいの酸、グルタミン酸などのアミノ酸は大きい酸です。

はじめまして。 投稿者: **亜鉛です** 投稿日: 2006年6月14日(水)01時26分8秒

いつもBBSで勉強させていただいています。
自分は今日、渋谷で野村先生の講習を受けました。ありがとうございます。
野村先生の講習は毎回かなりスキルアップに繋がってます。
講習の中で、カラー・パーマ施術後のPHをどこまで下げるのか？
ってところで、急激に下げない方がダメージが少ないと教えていただきましたが、

過水の後に酸リンスを使ったら、ペーハーは急激に下がらないのですか？

それとヘアダイカップにカラー剤を入れて各メーカーの酸リンスを入れて、ペーハー試験紙で測ったところ、どこのメーカーの酸リンスもペーハーを下げる事ができなかったのですが、実験方法が違ってますか？

某メーカーのアルカリ除去微粒子配合のトリートメントだけはペーハーを下げれたのですが。

ひらめさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月13日(火)22時03分38秒

はじめまして。

シモちゃんの裏メニューのアイロンの使い方は独特です。裏メニューだけのことはあり、どちらかというとビビリ直しや理容のアイロンパーマの方法に近いと思います。このような方法は水分がある程度必要で乾燥し過ぎないことがポイントになりますので、50%ドライという表現となったのでしょう。

ソニルCAは少量です。ただし、シモちゃんのアイロンは最初から直接アイロンをはさむことはしないで、アイロンを浮かしながら数回上下に動かしてアイロン熱で髪を予熱してからアイロンを軽くはさむような動きをします。それによってドライは70%ぐらいにはなっていると思います。180度を用いないのも、そのあたりのテクニックを生かすためでしょうね。デジタルパーマ風のストレートで面白いですね。

ズボンにアイロンをかけるときに、ウールであれば120~140度のアイロンでプレスします。そのとき、完全に乾燥したズボンだと、しわはなかなかとれません。そこで、スプレーで水をシュッとかけて、少し濡らしてからアイロンをかけます。するとしわは伸びるのです。よく完全ドライといいますが、完全ドライではアイロンは効果が出ません。

アイロンで蒸気がでるのは問題ないですが、急激に水が高温のものにふれて気体の蒸気になる「急激な爆発」が危ないの訳です。つまり、ジュッと音を立てるのは良くないですね。ある程度髪の温度を上げてからアイロンをあてれば、水蒸気爆発はしにくくなります。ただし、テクニックとしてはなかなか難しそうですね。

失敗しない方法ということでは、BBSでも書いていますように私はシャンプー台でソニルCA、タオルドライ、シード、エッセンス、80%ドライ、アイロンをおすすめしています。ただし、80%以上に乾かしすぎないこと。毛先はダメージによって乾きやすので注意してください。

それからひらめさんの質問であるPA?Tストレートについて、私は良くわかりません。BBSの皆さんはご存知ですか？いろいろなメーカーさんと接点があるみなさんのほうが知っているように思いますので、情報待っています。

無題 投稿者:ヒラメ 投稿日:2006年6月13日(火)18時37分38秒

質問なんですけどシモちゃんの裏メニューで ストレートで軟化→プレーン→シード エッセンス→50%ドライ→ソニルCA →塗布アイロン(140から160℃)

ドライの後にソニルCYS又はソニルCA 塗布してアイロンとなっておりますが蒸気が出て熱いのは？それと傷みそうな気がするんですけど？またなぜそで使うのか？知りたいです。

それと某メーカーのPA?Tストレートでどんなストレートなのかご存知ないですか

Kさんの質問メール(続続続編) 投稿者:noum 投稿日:2006年6月12日(月)09時51分46秒

Kさんの質問の第4段です。

Q:パーマに関してですが、以前質問させていただいた返答からですが、アルカリのシステアミンは、イオン化が少なく、疎水的な性質を持ちますので、水が入りにくい場所に入りやすい性質をもっています。と、お答えを頂きましたが、そのイオン化が少なくなるとは、システアミンの追記のところで書かれていることですか？アルカリだとプラスマイナスゼロになるということですか？

A: pHが10近くになるとアミノ基は電氣的にゼロになりますが、pHが8や9では少しはプラスを持っています。全体としては疎水的に近づくという表現です。

Q:あと疎水的な性質～は、水が入るところは親水性で、親油性（疎水性）の所は水は入っていきにくい。ということで、システアミンの疎水的な性質というのは、髪の毛の親油性（疎水性）のタンパクまで入っていくと考えていいのですか？そこがなかなかこれでいいのかなーと思っていたので。

A:親油性という意味は結晶構造が高いという意味です。タンパク質は元来プラスもマイナスも持っていますが、それらがイオ的に結合してプラスマイナスゼロの状態に結晶状態になっている場所があります。水に溶けないタンパク質ほどその割合が多いわけです。そのような場所にアルカリのシステアミンは入りやすいですね。具体的には主鎖のフィブリルとマトリックスとの間のS-S結合が疎水的な領域で、マトリックス同士の結合は親水的な領域と言われています。

Q:チオグリセロールという還元剤が入ったカーリングローションもたまに使っているのですが、これもやはり疎水性が高いのでしょうか？軟毛のカラーをしていないおばあちゃんの髪なんかはこれで驚くぐらいクリツとかかるので。この還元剤も感作性があると聞いたことがあるのですがなぜなのでしょう？

A:チオグリセロールもグリセロールという油に近いものをもっているのと同じように疎水性の場所に入りやすいです。感作性はグリセロールの肌への浸透しやすさにあります。ローションという意味はアルコールという構造を意味していますので、肌奥にもしみやすいのです。

Q:あとム○ナ○さんからでたスピエラつかってみました。確かに先生の言われているように、ひとつのツールとして考えればいいなという感想です。確かにグレイカラー後にしたのですが、退色はほぼなしでしたが、髪質改善ということを考えてとき少しアルカリにふってから、中間処理やなにやらしたほうがよいのでは？という感じでした。先生はそこどころどう思われます？すべて酸性処理で行ったほうがよいのか、少し膨潤させてからしっかり処理したほうが質感的にはよいのか？ケースバイケースだと思いますが・・・

A:酸性に特徴を持たしてあることと、オイル系ということで、性質を生かすのであればダメージヘアなどに使うとよいでしょう。用事調整とオイル系なので薬剤そのものに混ぜたり、中間処理に水系のPPTが有効的(浸透)かは、やってみなければわかりません。前処理でアルカリにもっていくことは良いと思います。髪質改善してからウエービングの順かもしれませんが、効果は少なそうです。中間処理だと酸性だとPPTは入りにくいので考えどころです。理論ではそうなのですが、オイル系なので一度ドライしなければいけないかもしれませんね。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

Kさんの質問メール(続続編) 投稿者:noum 投稿日:2006年6月9日(金)22時59分21秒

Kさんの質問メール第3弾です。色々な意見やアイデアがいっぱいです。本当にありがたいです。他社の商品も入っていますが、良い商品ですのでそのままのせたいと思います。

(研究成果)

パーマかかっている髪にトイトリCAはやはりパーマがゆるくなるので、トイトリ特トリで前処理しています。今度トイトリ浸透促進で前処理、施術を試してみようと思っています。カラーの時、癖毛を抑えたい場合はトイトリCA 1:1で前処理後、カラー毛先微アルカリでまっすぐコーミングで、癖毛も少し収まり、よい結果が出ました。

トイトリCAは配合を変えると既ストレート部のメンテナンスやなどにも使用しやすいです。

ハ〇二〇のローコントローラーのまねで、既ストレート部に先にトイトリCA特トリ2:0.5~2:少々を既ストレート部に1剤がついてダメージしないように塗布してから新生部塗布してなじんできたらコーミングでという方法もとてもよい結果が出ます。

A: Kさん、また、研究結果が出たら教えてくださいね。私も勉強になります。

Q: 頂いたメールにヘマヘマの後にキトキトでチェンジリンスと言われていましたが、それは一度ヘマヘマをした後流してからしますか?流さずにですか?あとヘマヘマで乳化後、時間を置いたほうがいいですか?

A: 流さずにです。ヘマヘマで乳化すると色が深く入りますので、それを希望する場合は時間を置きます。深くしたくなければ連続してキトキトに入るか、ヘマヘマ処理を除きます。

Q: 今回は髪についての質問です。まずはカラーの乳化についてです。カラー後シード・ベータ・ヘマヘマなどを塗布して乳化していきますが、カラーお流し前の乳化の意味を、シードヘマヘマを使ったときどういう風に髪に浸透して結果をだすのか教えていただけませんか?

A: 乳化時は髪が一番開放されている時です。当然、中からの髪の成分が抜けやすい状態です。逆に外からのPPTやCMCもとても入りやすい時でもあります。髪の内部では、イオン結合、疎水結合、水素結合、重合など色々な反応が、髪と髪、髪と薬剤、薬剤と薬剤との間で、着いたり離れたり複雑に反応しています。外の環境を濃い濃度にすれば、その複雑な反応のなかに薬剤が溶け込むので、シードによって風合いを改良したり、ヘマチンによって架橋ができたり、内部からのケラチンの流出を防いだりできるのです。

Q: 次はダメージとpptについての質問です。

髪のダメージはホームページに書かれているようにキューティクルの物理的・化学的損傷から始まり、最後には結晶性ケラチンまで分解されて髪が切れてしまうと書かれていますが、そこで疑問です。PPTにも色々分子量があると思うのですが、それはいったい髪のどこに定着するものなのでしょう?たとえばケラトースのような高分子のPTは髪の中まで浸透することは可能なのでしょうか?以前髪の中に入るPPTの大きさは1000ぐらいまでで最大でも3000ぐらいまでしか入らないと聞いた事があるのですが、そうすると高分子で補修することの考えは違ってきそうな気がして。(3種は今まで使った中でも最高ですが)頭の中で髪が低中高分子でコルテックスの内部のどこに定着するのか?果たしてキューティクルの表面だけで終わってしまうのか?それともエンドキューティクルのポイドに定着するのか?よくわかりません。詳しい説明を教えてくださいませんか?

A: PPTの入ることができる場所は、髪のタンパク質が抜けたところです。したがって、ダメージした髪にはPPTは入りますが、ダメージの無い髪にははいりません。ケラトースのような高分子はその動きがはっきりしていて、ダメージセンサーのようです。髪の中に入るPPTの大きさは1000ぐらいまでで最大でも3000ぐらいまでしか入らないと聞いた事があるのは、実験に使われた髪がダメージの少ない髪での結果だと思えますよ。実際にパーマやカラーの施術で、どれくらいのサイズのタンパク質が抜けてくるかという実験をした研究者がいて、3万ぐらいはしっかりとできていました。大きいところでは5万近くまでできていました。国際学会ではパーマに用いたPPTの補修効果を放射線ラベルという方法で研究していましたが、13万までしっかり入っていました。これが現在の研究成果です。

タンパク質は長いネックレスのようなものです。小さな穴に、短いへびと長いへびとどちらが入るかという質問の答えと同じで、顔が入れば体もはいるのです。分子量の違いはタンパク質のフィールドでは長さであって、太さではないのです。

定着位置はタンパク質が抜けた穴の周りにあるイオン結合の場所、疎水結合の場所などで、エンドキューティクルという特定の場所ではないと思います。ただし、よく壊れるエンドキューティクルやマクロフィブリル間マトリックスなどはPPTの定着しやすい場所ではあります

が・・・。

(研究成果)

BBSにのっているゆかりさんの質問ですが、最近うちでやった例を参考にでもと施術例を・・・

1人目・・・硬毛 多毛 リフトアップしにくい 新生部1cm 既染部9.5 毛先5cm 既ストレート 長さ 肩甲骨下 トイシャン後 ベータ 3種3倍 トイトリCA特トリ 2:1:2割ぐらいたぶん パルッキー7分 流し 3種5倍 既ストパー部ローコントローラー 根元から既ストパー部はずし 中性SPヒート少々 塗布 既染部コーミング 流し 軽くシャンプー CYS ささら 裏技 ジェル キトキト ドライ ブローアイロン 根元 8レベルグレーカラー5% 塗布後 既染部 前処理ベータ 微アルカリクリア:ソニル2剤:特トリ1:3:1割 しっかり混ぜる チェックOK後 ささら～

人によりますがこのお客様はストレートがききやすい方なので既染部は色味を入れなくても少しくすむことを想定してクリアでせめました。結果程よい重さも毛先に出てつやも復活し喜んで帰られました。

2人目・・・肩下 毛先5cmストレート 根元3cm 髪質はりはないがリフトアップしにくい普通毛 既染部退色10～11 根元ライトナー リフトアップ少し根元暗めで(明るくならぬため) 流し ベータ 3種3倍 毛先いきいき トイトリCA 2:1パルッキー7分 流し 根元～中間 ハホニーX+β 特トリ少々 毛先 スピエラ 流しシャンプー後 ラメ1K-MAX 流し ささら 裏技 ジェル キトキト ドライ ブローアイロン 2液 流し シャンプー台で微アルカリと弱酸性MIX:ソニル2剤+3%1:3 カラープロモ 裏技少々根元からワンタッチ 色味OK後 ささら～仕上げ 手触りもよくこちらのほうが仕上がりは柔らかかったです。たぶんカラーの放置時間に違いが出たので。参考までにと

A:ありがとうございます。ゆかりさんも喜ぶと思います。

Q:あと将来的な希望としてはソニル2液に少し界面活性剤を入れてトナー用の2剤として商品化されたらなと思います。今現状混ぜにくいので。こういう場合とトイシャンを少し入れるといいですか?今はカチオン系の2剤と割ることが多いです。

A:カラー剤が硬いのでトイトリなどのトリートメントでまず割って緩めてから、ソニル2液で割る方法が良いと思います。どうでしょうか。

Q:あと前言われていた新商品いつごろ発売になりそうですか?楽しみに待っています。

A:リマサリは7月発売です。ヘアクレンジング、ヘアトリートメント、スカルプケアローション、マッサージオイルなどが先行し、クリームバス、スキンエッセンスが続きます。ヘッドマッサージのマニュアルブックも作成中ですよ。お楽しみに。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

Kさんの質問メール(続編) 投稿者:noum 投稿日:2006年6月9日(金)22時04分0秒

Kさんからの質問は難しいですが良い質問です。ご紹介します。

Q:システイン酸が毛髪内部に増加するといけないのはなぜですか?

A:システイン酸は髪が水を吸いやすくなる原因なのです。ダメージも進み易くなりますし、髪も切れやすくなります。

Q：ハ〇二〇の商品で、K-MAXとCγ12があるのですが、今現状主にワクワクを使用しているため、なかなか活躍の場がなく、影を潜めています。K-MAXは、ラメ1をした時に感知的に物足りないときにしています。後は寒色やグレーのカラーをする場合に時々活躍しています。Cγ12なのですが、いま現状いきいきシードが良すぎてとアルコールの問題で使用しなくなってきました。たまにケラテックを使用するとき一緒に使用するぐらいです。何かこの2つのよい活躍の場はないでしょうか？

A：どちらもカラー前の3種混合に混ぜる方法も考えられます。Cγ12は紫外線によるカラーの褪色防止効果が高いので、乳化時に用いるとよいように思います。またパーマやストレートの間にも使えます。

Q：あとヒートケラチンもあるのですが、これは今はパーマ1剤に混入したり、3種の希釈に混入したりしているのですが3種の場合、どれぐらいの割合で混入すればよいでしょうか？今は3倍の時10%ぐらいでしています。

A：ヒートケラチンは5%程度でも良いと思います。ヒートケラチンは乾かすことで皮膜を作って髪に残るケラチンですので、アイロンやブローなどの熱がある場合に有効です。

Q：しっとりシードについてですが、以前BBSでしっとりは減力に効果があると書かれていましたが、いきいきではなく、なぜし通りのほうが減力効果が高いのでしょうか？いきいきは髪を疎水に振るけれど、しっとり（コラーゲン）は、髪を親水性にするからですか？これがよくわからないのでお願いします。

A：コラーゲンや低分子PPTはパーマの還元をゆっくりさせてしまいます。親水性が高いということは電気を表面に沢山持っているということになります。おそらく、チオなどと電氣的に引き合ってしまうことに関係しているのかもしれない。

Q：浸透促進原液についてですが、ホームページではソニルCAなどわることで強さの調節もできまると書かれていますが、いったいどういう意味なのでしょう？今前処理は基本CAトイトリで硬毛、撥水毛はトイトリCA促進1：1：1でするととてもよい結果が出ます。なかなか浸透促進の出番がないので何かよい使い方はないのでしょうか？まだ試してはいたのですが、前処理で浸透促進5倍とトイトリCAどちらの方が白髪よく染まると思いますか？先生の考えを聞かせていただけると嬉しいです。

A：浸透促進は尿素とケラチンの力で髪の硬いところを緩めます。システアミンは還元剤として髪の硬いところに入ります。したがって、お互いの力を使うことで相乗効果が生まれ、システアミンの力を強めることができます。撥水毛はトイトリCA促進1：1：1でよい結果が得るのはそのためです。

パルッキーがあるのなら、浸透促進5倍&パルッキーを前処理に入れて、タオルで表面の水分をとった後で、ベータレイヤーミストと3種で保護し、そのままパーマやストレート、ヘアマニキュアも良いと思います。カラーのときは浸透促進5倍&パルッキーの後でお流しが必要かと思います（発色が遅れるため）。この方法ですとお流しが1回しなくてすみます。白髪するときにも有効ですが、トイトリCA促進1：1：1で加温やパルッキーのほうが良いかもしれませんね。ソニルCAは色を乗りやすくしますので、その力を利用しないなんて勿体無いですね。

Q：浸透促進の詳しい説明をお聞きしてもよろしいですか？何かよい使い方が浮かぶかも知れないので。ベータには混入をしてお客様に販売はしています。あと浸透促進という意味で、たとえば、アルギニンを前処理で使用してアルカリにふってから施術に入ると、浸透促進とは違いが何かあるのでしょうか？

A：浸透促進原液は、尿素のもつ水素結合を解きほぐす働きと高分子ケラチンの保護作用を持っています。尿素は硬くなってくるぶしなどの皮膚につけると柔らかくなりますね。硬い場所はなかなか水が入らないのですが、尿素は硬いところでも組織を緩める働きがあります。一方

高分子ケラチンは柔らかくなりすぎた個所を保護して、水を吸いすぎないように調整します。そういう意味では前処理のほかに、ストレートの中間PPTとしても効果的だと思います。アルギニンアルカリのアミノ酸です。尿素のような硬い場所への力は弱いですが、水を吸いやすい場所を柔らかくして、薬剤を入りやすくするのに役立ちます。

Q：今自分の髪にトイシヤンを使っているのですが、トイシヤン後何もつけずにドライした場合、油っぽいというか、指にまとわりつくというか、Cγ12を使った後のような感覚があるのですがあれは、トイシヤンの中にアルキル化した何かが入っているからそうなるのでしょうか？いやな使い心地ではないのですが、不思議な触感なので。シャンプーもトイシヤンのようなアミノ酸系や、ベタイン系などのシャンプーは、それ自体が透明が多く、市販などの高級アルコール系などの界面活性剤が入っているのには乳化系？が多いように感じられます。両者の形態の違いは何なのでしょう？利点や欠点などありましたら教えてください。

A：アルキル化シルクは入っています。ただ総合的な効果だと思います。このシャンプーは洗っているときは汚れを浮かしてとるように、水で流すときに大量の水でPPTなどの補修成分が疎水化するように作られています。おそらく、その疎水化した感触が不思議な触感なのだと思います。ダメージした髪が水を吸いすぎないように作られています。乳化系のもはオイル成分が入っているために乳化が必要であり、しっとりタイプが多いですね。透明タイプはPPTや植物成分が補修に生きてくるので、しっとりというよりサラサラのものが多いです。それぞれの求める仕上がりで選べばいいのですよ。最近は透明でもオイルは入る方法がありますので、透明でもしっとりさせることもできます。

Q：ベータレイヤーなのですが、シャンプーカクテルと同じようにお客様の髪に合ったものを調合してお渡ししているのですが、キトキト+ヒートシルクという組み合わせも大丈夫でしょうか？

A：ドライヤーやホットカールをお使いの人にお勧めですね。

Q：ジェルエッセンスですが、シルク主体でできていると思うのですが、髪だけでなく肌や頭皮にもつけてもいいと書かれていますが、なぜいいのですか？いまいち頭皮にシルクとかがつくと毛穴が詰まるというイメージがしてしまい、自身を持ってお客様に薦められないので。あとジェルエッセンスをつけたあとのあのキュツとした触感はなぜでしょうか？髪が引き締まる様な感じがします。

A：ポリマーのような強い皮膜性があるわけではないので毛穴が詰まるほどのものではないですよ。通常のシャンプーで簡単に落ちます。エステの美容液と同じ作り方です。ただ、化粧品の種類は髪用ですので髪に使うものとして考えてくださいね。髪がしめる感覚は乾くときのタンパク質の薄い膜ができるからです。シワ用に使われるリフトアップのカラーゲン化粧品と同じ原理です。でもこの膜はポリマー樹脂の皮膜とは違って水ですぐにふやけますので、洗えばとれる程度のもので、シワ用の化粧品と同じつくりです。

Q：あと今お店にはパルッキーがあるのでデミさんのストレートのサンプルをいただいたのですが、デ〇さんはすごく卵殻膜入りと商材をすごく押していますが、卵殻膜自体先生はどう思われますか？前処理で使用するとケラチンよりも含有シスチンが多いのでパーマがかかる場所が増える様な感じで売り込んでいるのですが本当にそうなのでしょうか？僕自身あまり実感がわかないので。そうするとケラチンで前処理する必要がなくなるのでないのかなと。以前デミさんの毛髪科学講習参加したとき、あまり前処理でのケラチンでキューティクル保護が必要とは言われていなかった。よければ先生の前処理についての考えを聞かせていただきたいです。

A：卵殻膜のケラチンもケラチンの1つですし、デ〇さんはそれが売りですので、効果があれ

ば良いのだと思います。ただし、前処理に使うと・・・の話はへんですね。もし、前処理に用いたPPTのシスチンを使ってパーマがかかる場所が増えるのであれば、髪の毛のSと卵核膜のSとが結合してしまうことになります。それが多くできることになれば髪自体の結晶性が崩れることになり、髪は弱くなってしまいます。何か表現のしかたが、うまく伝わらなかったのでしょうか。

実際に起こっていることはケラチンの疎水領域が髪の毛の親水化を防いでくれるということだと思います。デ〇さんの卵殻膜ケラチンの分子量はどれぐらいなのでしょう？2万以上であれば保護作用はありますので、前処理にも効果的です。

Q：たとえばパーマの前処理とカラーの前処理との違いなどパーマは保護という観点で考えればいいですか？カラーの場合、寒色暖色によって前処理の違いがあると聞いたことがあります。寒色の場合どちらかというと表面で発色することと、暖色は基本的に直接染料が入っている場合が多いので色素が定着する場所が違うので寒色暖色の色味によっては前処理で分子量を変えることや、コラーゲンで減力させたほうがいいのか場合などいろいろあると思いますが（あまり理論だてては知らないのです。けれどk-MA Xは寒色系の前処理にいいと聞いたのでそれはやっています。）もしカラーことも何かお知りだったら教えていただけませんか？パーマのことは色々勉強させていただいていてわかるのですが、カラーの発色などにかんしてなかなか知る機会がないので、よろしくお願いします。

A：パーマの前処理もカラーの前処理も基本は施術によるダメージを最小限にするための予防です。特にキューティクルの保護ですね。ただし、せっかく行うのであるから均染性や色落ち防止などの効果も欲しい、ウエーブのかかりを良くしたいとプラスアルファを求めているのです。カラーの発色に関してはほとんどのPPTは発色を抑える働きをします。したがって、カラーの場合は付けすぎに注意しなければいけませんね。どっちかというとアルキル化タイプは発色を邪魔しにくいものですが、多く使うとやはり邪魔をします。

なぜならば、過酸化水素によってカラーが重合するときに、染料中間体のジアミン類はプラスの電気を持ち、お互いが結合して大きくなっていくのです。プラスの電気はマイナスの電気と引き合うでしょう。つまりはPPTの多くはマイナスなので、髪の毛の表面で染料中間体同士が結合して大きくなっていく反応を邪魔してしまうのです。したがって、PPTはマイナスの電気がすくないものが邪魔をしないのですが、低分子はマイナスが多くて邪魔をしてしまいます。高分子も低分子よりは少ないですがマイナスを持っています。ただ、低分子と高分子をバランスよく混合するとPPT同士でプラス・マイナスを打ち消しあうので混ぜたほうが邪魔をしなくなります。さらにアルキル化物であれば邪魔をしにくい。3種混合の考え方です。

カラーの開発者はどのように色を決めているかを考えてください。ダメージの少ない中身の詰まった良い髪における発色を標準としますね。つまり、親水・疎水のバランスが取れた髪であれば、開発者の狙った色に染まるわけですね。前処理はバランスのとれた髪にする作業です。髪はPPT、CMCオイル、NMFなどの低分子などのバランスが大切ですので、ダメージした髪を開発者が狙った色に発色させたいのであれば、PPTもオイルも低分子の保湿成分も必要ですね。

カラーは色つくりのために複数の染料中間体やカプラーなどの色になる部品が配合されています。それらの部品が髪の中でそれぞれのもっている大きさや性質に従って髪の中に吸収されていきます。やがて、髪の中で一定の比率で吸収された部品同士が結合して大きくなって色になるわけですね。この部品の使い方が狙った色味です。

ダメージしてバランスをなくした髪は、それぞれの染料中間体の髪への吸収速度が変わってくるために、髪の中で重合を始めた際の部品の構成比率が良い髪の場合と変わってしまいます。元来、大きい目の部品は髪への浸透がゆっくりで、重合して狙った色味に発色する際には少なくともよかったのに、ダメージが大きくなった髪では、大きい部品も浸透しすぎて重合にその部品を使いすぎ、狙った色味ではなくなってしまうことが起こります。こうならないようにコラーゲンで減力したり、アルキル化タイプで入りをよくしたり工夫するのです。でも、それは小手先の方法ですね。カラーもパーマも、親水・疎水のバランスのとれた髪に補修すれば結果良くなるのです。

ゆかりさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月9日(金)19時17分52秒

正解はアルカリカラーでリフトアップですね。低アルカリでは難しいですから。微アルカリカラーとキトキト10倍をミックスというのは10%程度で十分でしょう。中性から弱アルカリ付近まで落としながら色を乗せる目的です。もともとアルカリが高くなければ3%の過酸化水素で割って使えば大丈夫です。染まる時間は早くなりますので時間管理はしっかりね。
弱アルカリカラーをソニルの2剤で溶かして(1:1)粘度が無い状態で、シャンプー台でトリートメントのように付けて流す方法もあります。

ありがとうございます★ 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年6月9日(金)17時31分11秒

添付ページを良く見てなかったです^^;すみません!!
細かい質問を続けていいですか(><)??
左側の最初に「新生部を低アルカリカラーでリフトアップ」とありますが、右側の最後の「新生部をアルカリカラーでリフトアップ」とでは違いはありますか??
同じカラー剤でいいんでしょうか?
あと、右側のカラー施術の所で、微アルカリカラーとキトキト10倍をミックスとありますが、どのくらいの割合なのかが気になってしまいました!細かい質問すみません・・・
お茶パックのお客様の予約が今度の日曜日に入りました^^
その後の色の様子など、また報告させて下さい★そのせつは、サプライズアドバイスありがとうございました(^^★)

ゆかりさんへ(訂正) 投稿者:noum 投稿日:2006年6月9日(金)16時30分39秒

添付のページの左側と書きましたが、右側でした。左側は2剤を使うラインで、右側が2剤を使わずにカラーを行うラインです。逆でした。
最初の既染部のリストアップ後、お流し、シャンプー、タオルドライと続きますが、ストレートは良く水分をタオルで吸い取るだけでウエットで開始しましょうね。ドライしますとそれだけ前の施術で残留しているアルカリが濃縮されてダメージを引き起こしますので、施術を連続する際はウエットで始めるようにしましょう。

ゆかりさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月9日(金)15時53分23秒

こんにちは。お茶パックのときは大活躍でしたね。これからもよろしくお願ひします。

縮毛矯正とカラーをいっぺんにやりたい場合は、順番として縮毛矯正を先に行うほうが好ましいです。なぜなら、カラーを先に行くと縮毛矯正の1剤お流しのときに色が落ちてしまうからです。確かに縮毛矯正は伸びにくい人に対しては、カラー後に行くと伸びやすくなりますが、色が落ちてしまうとお客様の満足度は低下してしまうと思います。

この二つを同時にやる場合の時間短縮できる方法は、下に添付したページの左側の方法に書いてあります。時間短縮だけでなく、ダメージも少ないと思います。まず、既染部の明るさに新生部をブリーチしておいてから、縮毛矯正、中間にPPTやCMCトリートメントで保護しておいてアイロン、ここでベータレイヤーミスト、3種と保護をしてから弱アルカリカラーと進みます。ダメージに応じて乳化にも工夫しましょう。縮毛矯正の中間にトイトリを薄く付けてドラ

イ、アイロンをすることで、カラーのアイロンによるムラを抑えることができますので、そこは絶対省かないでね。

<http://www.wakuwakuseed.com/newpage3.html>

Kさんへの返事を紹介します 投稿者:noum 投稿日:2006年6月9日(金)15時34分1秒

お世話になります。頑張っていますね。さて、質問ですね。

●システイン酸除去は間違いです。一度できてしまったシステイン酸はなくなることは無いです。つまり、システイン酸除去にすぐれているシステアミンという表現は間違っています。システアミンはチオに比べてシステイン酸を作りにくいという実験データはありますので、それを間違えて理解しているのではないのでしょうか。

システイン酸は1剤で切った生じたSHが中間水洗や2剤処理の不足でS-Sに戻れずに残ってしまい、それが空気酸化などでシステイン酸に酸化される場合と、過酸化水素2剤の放置時間を過剰に長くとした場合、酸化が進みすぎてシステイン酸が生まれる場合などが考えられます。

●Kさんの施術方法は本当に良く勉強されていて完璧ではないのでしょうか。ただ、カラーの乳化のヘマヘマの後はそのままキトキトのチェンジリンスしてからお流しシャンプーが良いと思います。髪に有効成分を閉じ込めてから洗うほうが良いですね。それぐらいです。

●カラーの場合はカラーの2剤が過酸化水素なので問題ないですね。トリートメントの場合がおそらくS-Sに戻るのか心配なのだと思います。結果的には今回のようにトイトリ+CA(2:1)のように化粧品グレードのCAをさらに希釈しているため、還元剤濃度は1%以下となっています。つまり1浴式のパーマ(2剤は空気酸化)よりかなり低い濃度を利用します。それぐらいのS-Sの切断はドライヤーで乾かす程度の空気酸化で戻っていくぐらいの傷なので心配しなくても大丈夫ですよ。

強いお薬で施術することは、いきなり手術でおなかを大きく開いて手を入れるようなものです。患者さんの負担も大きいですよ。逆に弱いお薬で前処理することは、手術で小さく切開して患部だけを切り出す方法です。後者のほうが患者さんの負担は少ないですよ。お客様は必ずリターンしてきます。

Kさんの質問メールを紹介します 投稿者:noum 投稿日:2006年6月9日(金)15時28分41秒

こんにちは。お世話になってます。今回はいろいろ質問がありすぎるのでメールさせて頂きました。

まずはシステアミンについての質問なのですが、以前マルセルで、システイン酸除去にすぐれているシステアミンを使っていますという、サロンさんが出ていたのですが、システアミンで本当に可能なのでしょうか？システイン酸自体は不可逆なもので痛みが進むと髪の中に増えてくると記憶にあるのですが、もしよければシステイン酸のことも詳しく教えていただけないでしょうか？

今現在カラーパーマなどの前処理で

カラー ベータ 3種3~5倍 トイトリ+CA(2:1)時と場合で特トリ少々 パルッキー7分 流し 毛先軽く3種5倍 カラー(重くしたい場合特トリ少々or裏技) 流す前にしっとりorいきいき ヘマヘマ 乳化 シャンプー タオールドライ さらに Hコンク シャンプーボウルに溜めながらキトキト+裏技 ローズビネガー チェンジリンス トイトリ仕上げ

パーマ ベータ 3種3~5倍 トイトリ+CA(2:1)時と場合で特トリ少々 パルッキー7分 流し ベータ ワインド 中間水洗 いきいきペータ3:1 ヘマヘマ 2剤(過水)ア

ウト 2 剤もみこみ 流し さらにさら Hコンク シャンプーボウルに溜めながらキトキト+裏技 ローズビネガー チェンジリンス トイトリ仕上げで行っています。

これでとても良い結果が出ています。特にトイトリとシスアミがとても良い結果が出ている気がします。そこで質問です。野村先生からみてもっとこうしたほうが良いのではという方法は何かないですか？

あとトリートメントやカラーなどもシスアミをよく使用するようになったのですが、カラーの場合、リタッチのときなども毛先は微アルカリのクリアーなどで酸化するように願いながら施術しているのですが、トリートメントの場合、その後酸化剤などは使わないのですが、空気酸化だけで十分なのでしょうか？（ちゃんと良い結果は出ていますが）あとカラーにしてもトリートメントにしても SS をきっているわけであって、空気酸化するといっても完全には酸化しないと思うのですが、シスアミで前処理&トリートメントをしていく上で何か悪い弊害など出てくる恐れとかはありますか？それにならないような対処法などなにかありましたら教えていただけないでしょうか？前処理をシスアミでは最近やり始めたところなので何回もされているお客様がまだでてきていなく、まだ先がみえていないので、よろしくをお願いします。

こんにちは★★いつもお世話になってますく(_ _)> 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年 6月 9日(金)14時51分28秒

疑問なことがあったので早速質問します (^_^;))

縮毛とカラーをいっぺんにやりたい！という時に、順番として、こっちが先の方が好ましいとかはありますか？？傷み具合や、入れたい色等にもよるとは思いますが。。両方のメリット&デメリットを教えてください★★もし、この二つを同時にやる場合の時間短縮できる方法や、アドバイスなどあればお聞かせ下さい (><)

あと、あるチラシで見たんですが、、弱酸性のカラー剤を縮毛の2液代わりに使うやり方をどの様にお考えでしょう・・・？先生のご意見を聞きたいです (@__@)

シヤさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年 6月 8日(木)13時48分46秒

始めまして。これからもよろしくお願いします。

ベータレイヤーのページを下に貼り付けておきました。場所は PRODUCT のページの下の方です。詳細な説明もあります。プリントアウトしたい場合はパンフレット PDF というページにファイルが入っています。例のパスワードが必要なページですので、パスワードをご存知であれば入ってプリントアウトしてください。もし、ご存知でなければメールにてお問い合わせくださいね。先日、カラーでベータレイヤーミストとさらさらシード4：1で乳化→キトキト10倍希釈でチェンジリンスは良い結果でした。シード PPT を変えたりしても面白そうです。色々とお試してください。

特トリなどのトリートメント系は重くなりがちですが、それは量と揉み込み時間で決まりますので、通常の方法で重いなーと感じている場合は量を減らすのが正解です。軽く仕上げたい場合には連続法が便利です。

トイシャン→タオルでよく水分をふき取る→ベータレイヤー(全体) →3種(3倍希釈全体) →トイトリ(全体) →特トリ(1.5ml：小指の先程度；ミディアム 中間から毛先) →(髪質改善の場合はシード PPT 5倍希釈) →ヘマヘマ(10倍全体) →キトキト(10倍全体) →毛先に裏技オイル→加温10分→(オプション：タオルで水分を抜いてドライヤーでキューティクルが少し湿った程度まで乾かし、80度アイロンでスルー) →お流し→トイトリ→お流し→ブロー仕上げ

<http://www.wakuwakuseed.com/newpage42.html>

ケミ命さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月8日(木)13時12分50秒

お久しぶりです。お元気でしたか？

デジやアイロンストレートの時に使用される「熱酸化」と言う言葉の意味ですね。

基本的には空気酸化と同じです。ただ、それに熱を使って空気酸化の速度を上げているということです。空気酸化というのは、空気中の酸素で1剤によって切られたS-S結合が再結合するということを言っています。

再結合は2剤によって起こるだけではなく、空気にもふれても起こるのです。ドライヤーで風を送っても、ストレートの際に1剤をお流しする際にも、やはり再結合は起こっているのですよ。したがって、シャワーで洗うときにも空気を吹き込むように強く水流をあてないほうが良いのです。シャンプー台の縁のところで髪が折れていると、空気酸化によってせっかく切ったS-Sが折れた形で戻ってしまうこともあります。気をつけてくださいね。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

失礼します！！ 投稿者:シンヤ 投稿日:2006年6月8日(木)11時08分42秒

埼玉で美容師をしています。

リトルの商品で、ベータレイヤーミストがあると思いますが・・・
HPのどこに記載されているのですか？

商品自体は既に使用しています！

使用感で今までの物みたいに油分系を使うと「重さ！」が気になりなしたが・・・ただの付けすぎですが・・・

ベータレイヤーミストは「軽さ！」って意味で凄く驚いています！

(無題) 投稿者:ケミ命 投稿日:2006年6月8日(木)11時03分46秒

お久しぶりです。二回目の投稿になります。質問なのですが、デジやアイロンストレートの時に熱酸化と言う言葉を耳にするのですが、詳しく知りたいのですが...。お願いします

無題 投稿者:ROKU 投稿日:2006年6月7日(水)10時54分11秒

ありがとうございました

広島県福山市エリアの取扱店を教えてください

ROKUさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月6日(火)11時13分35秒

ラメラメも良い商品です。

リトルサイエンティストのはラメラメのようなトリートメント商品の形ではなく、色々な施術にも利用できるパーツを使ってトリートメントも行う方法です。

下のページをクリックしていただければ、トリートメントの1つの例が載っています。3種、特トリ、トイトリ、裏技オイルが基本で、風合い改良を伴う場合にはシードのPPTやヘマヘマ、キトキトなどを併用します。参考にしてみてください。

値段は弊社のほうがお値打ちになると思います。

3種混合だけでも70%のお客様は大丈夫です。髪が細くて立ち上げたい人や硬くて柔らかくしたい人など平均から離れて、現在の自分の髪が好きではない人のために、他のPPT類がありますが、それもブレンドで低分子から高分子まで調合してあり、複雑ではないですので、気楽にお試しください。

<http://www.wakuwakuseed.com/newpage11.html>

PPT 投稿者:ROKU 投稿日:2006年6月6日(火)10時18分22秒

ありがとうございました
ハホニコのラメラメも興味があるのですがワクワクとコスト面 工程時間などの違いはどうですか。出来れば使いやすいほうがいいかな
それと、高分子、中分子、低分子、なんとか γ 、その他いろんなPPTがありますよね値段も高い使い方も色々 悩みます? ワクワク三種混合があれば大丈夫ですか、又これだけは必要なものは何ですか よろしくお祈いします

ROKUさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月3日(土)21時44分2秒

はじめまして。
カラーのオキシもパーマのオキシも過酸化水素という酸化剤です。カラーは通常3%と6%を用いますが、パーマやストレートの2剤は1.5%が適濃度だと思います。粘度などの問題もありますが、法律的な問題を除けば濃度で管理すればよいこととなります。
一般的なお話ですが、過酸化水素は鉄などが入った水と混ぜると分解が進んでしまいます。また、アルカリでも分解が進みます。
パーマ2剤の間違った使い方ブロムと過酸化水素を混ぜて使う人がいますが、分解の性質が正反対(ブロムは酸性、過酸化水素はアルカリ)の2つを混ぜることは間違っています。過酸化水素の2剤にお塩を1%ぐらい入れたほうがウエーブをしっかりさせる効果があります。
リトル・サイエンティストの商品を使ってみたい場合講習を受けなくても大丈夫です。でもマニュアルなので、機会を作って聞いていただいたほうが良いと思います。商品の注文はディーラーさんの扱のある地区の場合はご紹介できますので、ご相談ください。興味がございましたら下のHPのメールアドレスまでお問い合わせください。

<http://www.wakuwakuseed.com/index5.html>

パーマの2剤 投稿者:ROKU 投稿日:2006年6月3日(土)15時48分52秒

はじめまして ちょっとお聞きしたいのですが
カラーのオキシを ストレートパーマの2剤に代用できますか もし3%使うとしたらどうしたらよいですか よろしくお祈いします。
リトル・サイエンティストの商品を使ってみたい場合講習を受けないといけないですか? また商品を注文するにはどうしたらよいですか。

システアミンについての追記 投稿者:noum 投稿日:2006年6月2日(金)17時43分55秒

システアミンの臭いについて質問を受けましたので、さらに追記しておきます。
システアミンのカーリングで独特の臭いが残りますよね。これについての質問がありました。ポイントは中間水洗・ヘマチン・酸リンスです。

まず、臭いの本体は何かというと、髪に残留したシステアミンとお客さんの出す皮脂の油とが反応してできる物質です。したがって、お客さんが脂っぽい人が臭いやすくなります。その臭いは1週間ぐらい髪に残り、濡らしたときに臭って乾かすと臭わないという特徴があります。
臭いを少なくするためにはどうするかが大切ですよ。臭いは残留したシステアミンがあるから発生するわけです。したがって、中間水洗をしっかり行うことが一番大切です。アプリケーションターなどで念入りに行いますので大変ですが、この操作は髪の仕上がりやウエーブのもちにとっても重要でもあります。怠ると毛先の風合いがバサツとなり、硬くなりやすいですね。中間水洗にはアルカリイオン水を暖めて使うと効果的です。

よく中間水洗しても、完全には除けません。そこで臭いを軽減するヘマチンを利用する方法もあります。銅を使う方法もあります。銅は以後のパーマの邪魔になることもありますので、施

術時だけで済ませましょう。

また、システアミンによる独特な臭いは酸性の髪では起こりにくいので、酸性にします。髪をアルカリのままでお客さんを帰すと臭いと言われるので、良く酸性に戻しておいてください。ただし、酸化剤は過酸化水素を選んだほうが臭いは減りますので、パーマの過水2剤を利用したほうが臭いに関しては良いです。その場合は、2剤後にpHを酸性に持っていく必要があります。以外に髪の内部まで酸性にするのには時間がかかるので、しっかりと行うという気持ちでチェンジリンスしてくださいね。

システアミンは臭いに欠点がありますが、低いダメージ性と髪の硬い部分を柔らかくする性質を考えるとうまく使うと大変役に立ちます。

KENさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月2日(金)16時59分57秒

ヘマヘマでチェンジリンスしてもドライは早くなりません。酸性のもの、例えばキトキトや酸リンスなどを使うとドライが早くなります。

酸性パーマ全てがそうだとは言えませんが、独特の刺激のある臭いは、スピエラという還元剤の臭いだと思います。つまり原料臭ですね。しかし、KENさんの書き込みでは酸性剤のクリームをハード、ソフト用に割るローションのほうの臭いだとすると、マスキング剤の臭いかもしれませんね。マスキング剤というのは原料の臭いを消すための香料のことを言います。

この酸性のカーリングローションを使ってみたい場合は、ハホニコさんやリアルさんから出ているようですから、出入りのディーラーさんにお聞きください。これからも大手さんからも出るでしょうから、あわてずにゆっくりと品選びしてくださいね。1つのデザインづくりの道具ですので、かたよりすぎも毛嫌いもせずにお使いください。これが合うお客様もいらっしゃるはずですよ。

うっちーさんへのお答え 投稿者:noum 投稿日:2006年6月2日(金)16時37分52秒

CMCとNMFですね。

CMCは細胞膜複合体、NMFは天然湿因子のことを言います。

髪をショートケーキで例えてみましょう。スポンジは髪を作っているケラチン構造物（キューティクルやコルテックス）に例えられます。小麦粉はケラチンタンパク質、卵は油、お砂糖がNMFと考えてみると、スポンジの1つの構成成分でしっかりとらせているものがNMFです。髪のNMFは単独の物質ではなく、アミノ酸やミネラル、尿素、クエン酸などの低分子を総称して言っています。

次にケーキはスポンジをクリームで何層にもはりつけますね。この生クリームみたいなのがCMCです。油とタンパク質を混ぜてクリームにしたもので、髪ではキューティクルやコルテックスをくっつける接着剤として働くとともに、髪をしっかりさせ、施術時のパーマ剤やカラー剤を運ぶ道として使われます。

下に参考になるページを載せておきます。

<http://www.d1.dion.ne.jp/~noum/cnh13.htm>

酸性ストレート 投稿者:KEN 投稿日:2006年6月2日(金)08時32分20秒

ありがとうございました

アルカリで膨潤の後ヘマヘマでチェンジリンスすればアルカリ剤でもドライが早くなりますかそれと酸性パーマ独特のニオイは何ですか酸性剤のクリームをハード、ソフト用に割るローションが同じニオイがします

またこの商品を使ってみたいよくはどうすればいいでしょうか。

宿題がでて... 投稿者:うっちー 投稿日:2006年6月2日(金)00時01分17秒

CMCとNMFの違いってどう説明したらよいでしょう???

システアミンについての追記 投稿者:noum 投稿日:2006年6月1日(木)18時24分50秒

システアミンは中性、弱酸性はアレルギー性は強くなりますが、アルカリではほとんど起こりませんと書きましたが、どうしてですかという質問を受けましたので書き加えたいと思います。システアミンはSH以外にアミノ基というプラスの電気を持つ手を持っています。一方、チオなどの還元剤はカルボキシル基というマイナスの電気を持つ手を持っています。

プラスの電気を持つ手は、いつでもプラスの電気を強くもっているかという、その強さは髪の毛のpHに影響されます。中性や酸性では強いプラスの電気を持っているのですが、アルカリ性になればなるほどプラスが弱くなっていきます。つまり、プラスマイナスゼロに近づいていくのです。一方、マイナスの電気の手は逆で、アルカリになればなるほど、強いマイナスを発するわけです。

さて、システアミンはアルカリに置かれると、プラスの電気がとても少なくなってプラスマイナスゼロの手になりますね。酸性に置かれると逆にプラスの手が多く出てきます。

髪や肌はどうかというと元々マイナスの手を多く持っています。マイナスの肌や髪にはプラスのものが付きやすいでしょう。つまり、薬液が酸性によればよほど、システアミンは肌に残留しやすくなるのです。肌に残ればアレルギーになる確率も増えるわけです。アルカリではシステアミンはプラスマイナスゼロの手ですので、肌に残りにくいのです。

さらに、プラスマイナスゼロの手ということは、電気的な妨害を受けにくいので髪の毛の疎水性の硬いケラチンのなかに、奥のほうへと入りやすくなるのです。

チオはアルカリでマイナスを強くもつ手でしたよね。したがって、マイナスを持つ髪の中に入ると、マイナス同士で反発しあって、さらに髪を膨潤させてしまうわけです。そうすると、水を吸いやすい場所に大量に流れ込み、過剰に切り過ぎることになると、過収縮といって髪が緩みすぎる状態、つまりビビることになります。

一方、システアミンはアルカリではプラスマイナスゼロの手ですので、髪の毛のマイナスと反発しないので、髪を膨潤しすぎないわけです。過収縮になりにくいのはそのためなのです。

プラスとかマイナスとか想像しにくい言葉なので混乱するかもしれませんが、ゆっくり呼んで理解してみましょう。

KENさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年6月1日(木)09時47分54秒

スピエラというオイル系の還元剤が最近昭和電工さんから発売されました。オイル系でかつ酸性付近で還元性を示しますので、この薬剤を使ったカーリングローションかもしれませんね。縮毛剤という医薬部外品ではなく、カーリング剤の化粧品に分類されます。したがって、ダメージヘア用で新生毛には弱いですね。

用時調整といって、使うときに1剤のオイルと2剤を混ぜる方法なので他と区別できます。この混ぜることによって、1剤のスピエラが分解して還元力をもちますので、カラーのように混ぜたものはどんどん分解が進むことでやがて還元力がなくなることで、作りおきはできません。臭いは施術時は強いので香料によるマスキングをしますが、残臭は少ないです。

現在は値段が高いので、1つのカーリングの道具として、他のパーマ剤などと必要に応じて使い分けることが懸命で、それ1つで騒ぐものではないかなと感じています。

下に昭和電工のHPをリンクしておきますね。

ストレートパーマ1剤の軟化後のドライは乾きにくいと感じるのは、髪がアルカリで膨潤(マイナスの電気が多くなって反発で膨らむ)して水を多く含んでいるからです。酸性に傾ければプラスの電気が増えてくるので髪の毛の内部の電気的な反発が少なくなり、収れんするために、含まれる水分が減るためにドライが早くなります。

http://www.sdk.co.jp/aa/news/2006/aanw_06_0477.html

酸性ストレート 投稿者:KEN 投稿日:2006年5月30日(火)13時25分28秒

ストレートパーマの1液で軟化の後のドライは乾きにくいですよ何故ですか
某メーカーの酸性の1液で軟化させるとドライが早いのですがその違いは何ですか
それと酸性の縮毛矯正で何故よく伸びるのですか、そのメーカーはすべて酸性の前後処理剤
を使います、納得いかないのですが結果オーライです よろしくお願ひします

カツオのたたき さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月26日(金)23時49分51秒

先ほど出張から戻りました。お土産の草加せんべいをいただきながら書いています。お返事が遅くなってすいませんでした。

質問の①のモノエタノールアミンについてですね。モノエタノールアミンという薬剤はアルカリ剤の1種で、広くパーマやストレートやヘアカラーに使われていますね。良く言うところの「臭わないアルカリ」で、アンモニアと比較されます。

ほとんどの臭わないパーマやカラーには使われています。

今回の質問は、システアミンとの併用のことですので、単に臭うとか臭わないという話ではなく、おそらく他社のシステアミンを使用しているカーリング剤にアルカリタイプと中性あるいは弱酸性タイプがあるのはどうしてなのかという意味だと思います。それについてお答えしましょうね。

システアミンという還元剤は、チオやシスのような還元剤よりも中性や弱酸性付近のpHでもウエーブをつくる能力があります。だから、中性タイプや弱酸性タイプ、つまりエタノールアミンのようなアルカリが入っていない薬剤が作れるのです。当然ながら、ウエーブをつくる能力はアルカリのほうが高いので、pHを下げたものはウエーブが弱くなります。pHが中性や弱酸性はアルカリよりも髪が傷みにくいので、優しいパーマ、傷まないパーマという印象があります。しまし、システアミンは意外とアルカリでも過収縮しないタイプの還元剤なので、髪はアルカリでもチオに比べてダメージがかなり少ないのです。

また、システアミンの性質ですが、カラー剤と同じでアレルギー性があります。その性質は中性、弱酸性は強くなりますが、アルカリではほとんど起こりません。つまり、アルカリのほうが肌には安全なのです。この性質はカラーでも同じですので、弱酸性のカラーはアレルギーを起こしやすくなりますので、頭皮にはつけないようにしてくださいね。システアミンも同じですよ。弱酸性のシステアミンは頭皮にはつけないようにしてくださいね。

それから、モノエタノールアミンは髪が傷むということを知ったという真意は、アルカリでアンモニアのように残留しないタイプではないという理由だからでしょう。ただし、施術において中間水洗や酸リンスでpHを酸性に戻すということを、きっちりと行わないと・・・という戒めでもあるわけです。アルカリを残留させないのがサロンとホームケアとの違いです。

ちなみにソニルの3つのシリーズは、アルカリ調整をモノエタノールアミンで弱アルカリにしたあとで、アンモニアでアルカリ調整しています。このブレンド方法は、ランチオニンを作りやすくするのに役立っています。

②のビビリ直しの質問ですね。これは下に記したHPのページ(ビビリ直し)を見ての質問だと思います。

ソニルCAをビビった毛先に薄く塗布してアイロンをいれるようにしているのは、芯を感じるビビリ毛の場合にあたります。また、ソニルCAの前に種々の薬剤を使った上でのお話です。ですから、ビビリ毛にはソニルCAとアイロンという簡単なものではありません。

なぜ、ビビリ毛にはシステアミンを使用することがベストなのかというと、ビビリはチオやシスで作ってしまったからです。チオやシスが切ることのできるS-S結合の場所は、ビビっていることを考えるとほとんど無い状態です。システアミンはチオやシスが入れない疎水性の高い場所のS-S結合を切り易いので、ビビっている髪でも少し切ることができ、伸ばすことができます。芯の感じるという意味は、まだ切るところが残っているという意味です。

下のページでは図で書いてあるだけで、具体的には詳しく説明していないために、CAを洗い流すかどうかを疑問に思われたと思います。図では3種、しっとりシードをヘマヘマで架橋し、

一方でCMCを満ちた状態で、蒸気力を使ってビビリをテンションをかけないのばしています。それからキューティクルが相当に脱落しているのでキトキトで表面をガーゼのように保護し、その上でソニルCAをほんの少しだけ、ビビった場所につけてすぐに乾かします。つまり、すこしだけ還元するのです。毛にはすでにキトキトで酸性にしておりますので、ソニルCAのアルカリは中和されています。70%ドライで80度くらいのアイロンをスルーして形を固定します。S-S結合も熱で再結合しますが、やはり2剤もつけたほうがいいでしょう。それからお流して、トリートメントします。

芯が感じられないビビリにはソニルCAは使いません。気をつけてくださいね。

<http://www.wakuwakuseed.com/page101.html>

はじめまして！！ 投稿者: [カツオのたつき](#) 投稿日: 2006年5月25日(木)16時21分51秒

はじめて投稿します。いつもこのBBSを見て『なるほど〜』と思いながら勉強しています。もちろん商品の結果もバッチリです。今回勇気を出して質問してみようと思いました。よろしくお願いします。

質問①モノエタノールアミンについて

今ソニルCAを使用しています。大変良い結果が出ております。CAにはモノエタノールアミンが入っていますが、入っていないシステアミンもありますか？モノエタノールアミンが入っている方が傷むと私が習ったんですが。先生の意見を聞かせてください。ちなみにモノエタノールアミンはどうゆう目的で使われているのですか？

質問②ビビリ直し

ソニルCAをビビった毛先に薄く塗布してアイロンをいれるように聞いたのですが、CAを洗い流さない方が効果的ですか？流したほうが効果的ですか？またそれはなぜですか？

忙しいとは思いますがよろしく願いいたします。

ありがとうございます 投稿者: [noum](#) 投稿日: 2006年5月14日(日)08時30分18秒

Nさんからメールでトイシャン、トイトリの感想をいただきましたのでご紹介します。Nさん、本当にご意見有難うございます。

使用した感想は…感激致しました。とても泡立ちもよく、刺激もありませんでした。すすぎも早くキシミも感じられませんでした。

合成シャンプーのように妙にヌルヌルツルツルした感じでもなく、でも水分を髪が含んでしっとりしているような。

トリートメントは最初手に取った感じはコックリした感じがなく物足りない…ように思いました。髪に馴染ませしばらく放置し、すすいでみると…やっぱり物足りない感じ。

しかし！

乾かしてみても驚きました！髪が程よい感じでストーンとまとまるんです。

決して重い訳ではなく。そして、頭が軽い！

何て言うか…髪と地肌の間に風が通るといふか。

私は、本当に色々な物を使って来ましたが、この仕上がり感は初めてでした。

これから暑くなるし、肩下まであるロングを短めに切ろうかと思っていたのですが…勿体ないかなとやめました。

とっても良い商品だと思います。

uchiumiさんへ 投稿者: [noum](#) 投稿日: 2006年5月13日(土)09時40分5秒

傷んでいる部分のダメージがどれくらいによりますが、バサついた結果になったのであれば原因は3つあります。

①1剤の毛先過剰軟化・塗布量と軟化時間が同じであればダメージ部分は過剰軟化になる

●毛先のダメージ保護は充分か？

3種以外にダメージ保護にはヘマヘマのヘマチンや酸リンスを利用したり、裏技オイルなどのオイルやトリートメントにキトキトを加えたような酸性トリートメントを使います。

● 1剤の塗布量あるいは弱いものを用いたか？

1剤の減力は、もともと毛先にはソニルCAのみを用いる方法、あるいはソニルT10をしっとりシード5倍希釈液などのPPTを用いて2倍から3倍に薄める方法があります。

● 1剤は同じでも時間を短くしたか？

時間は例えばソニルT10を用いた場合、1剤による毛先のダメージ部分の軟化時間は、5分から7分になるのではないのでしょうか。時間差があります。

②アイロンの前にPPTやオイルで保護したか？

1剤で軟化した毛先は、膨潤も他よりもしているので、内部からタンパク質やオイルが抜けています。アイロンのような強い熱が加わる場合、中身がなくて急速に水分が乾燥する毛先は強く収縮するので、バサツキの原因になります。中間にさらさらシード、ベータレイヤー、トイジェルエッセンス、キューティクルが少ない場合はキトキトなどの保護が必要です。

③アイロン温度は下げたか？

傷んでいる場所は非常に乾燥しやすく、②で書いたように保護がないと急激に縮むためにチリツキが出やすくなっています。そのような状態に180度のアイロンがあたればナメクジに塩の状態になります。②の保護とアイロン温度を落とすか紙や豚の皮などをはさんで、紙への直接の温度を下げましょう。本当にびびりそうな場合は80度ぐらいのほうが安全です。

ストレートについて 投稿者:uchiumi 投稿日:2006年5月12日(金)18時48分5秒

痛んでいる部分を矯正したのですが仕上がりがパサついてしまったのですがなぜなのでしょう
か？ 使った薬はソニルチオです。 使い方に誤りがあったのでしょうか？

1 前処理

2 薬剤塗布

3 加温

4 流し

5 アイロン です アイロンの温度のミスでしょうか？ 薬の塗布量の違いですか？ 教えてください。

ヒゲのブリーチ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月12日(金)13時13分55秒

外人さんは髪をブリーチするときに眉や髭もブリーチしますよね。肌用のブリーチ剤として有名なのがJOLENクリームブリーチです。日本のメーカーさんでも足や腕用のブリーチ剤も売っていますが、一番有名で刺激も少ないのがJOLENクリームブリーチと聞いています。インターネット通販や個人輸入で手に入ります。カイチさんは東京ですので、ソニーブラザなどでも買えるかもしれませんね。過酸化水素が入ったクリームの1剤と臭わないタイプの重碳酸ソーダかなんかの粉の2剤を混ぜて塗るタイプです。詳細は説明書を参考にしてくださいね。いたって普通です。頭用のものだとツンと臭いし、皮膚がただれる場合があります。肌用をお使いください。

おひげ 投稿者:カイチ 投稿日:2006年5月12日(金)12時25分37秒

お世話になっています。しばらく天気が悪いかと思っていたのですが東京は只今天気が良いです。

「ひげ」の事なのですが、私はサッカーが好きでよく見ていてヨーロッパで活躍している黒人の選手が「ひげ」まで金髪になっているのを見ていて以前からどうやっているのか不思議でした。染まりずらいし、鼻の下は臭くてたまらないのではないかと。それに肌が荒れて大変なんじゃないかと思えます。これからワールドカップで日本も盛り上がってくると思い、お客様からお願いされる可能性もありますので、何か良い方法がありましたら教えて頂けますか。場所が場所だけに説明するのが難しいとはおもいます。彼らがやっている方法でもかまいません。よろしくお願い致します。

光子さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月11日(木)22時14分24秒

特に癖毛軟毛にしっかりパーマがかかって痛んだ部分がストレートになりにくいといことですね。

毛先以外のクセの強い場所はうまくストレートになったのに、毛先のパーマ跡はストレートになりにくかった。

問題になっている毛先は「濡れている時ははっきりリッジが出るのに乾くと広がる」という訳ですから、水を吸う箇所と吸わない箇所が相当差がある（パーマで水を吸う箇所が相当ダメージしている）ということの意味しています。

光子さんの行った方法で毛先のダメージ箇所のS-S結合が切れなかったということは、

①先のパーマでアルカリで長い時間軟化したためにランチオニンのような還元剤できれいな結合が髪にできてしまった場合。

②吸水性のムラが激しく、そのムラが均等にきれいな。また、キューティクルがほとんどないために、アイロンで固定できない場合

というケースが想像できます。

①のケースであれば、ランチオニンははずすことができないので、それ以外の場所を切らなければいけません。ダメージを蓄積させたのはおそらくチオですので、チオが攻撃できるS-S結合の場所はあまり残っていないようです。また、ランチオニンでできた形を変えるほどのS-Sの切断をチオで行うのはビビってしまうために危険です。シスはどうかというと、チオとシスの攻撃する場所（水が入りやすい場所のS-S結合）は同じですので、効果は期待できません。チオやシスが切りにくいS-S（水が入りにくい場所のS-S）を切る力があるのが、アルカリのシステアミンです。アルカリのシステアミンはイオン化が少なく、疎水的な性質を持ちますので、水が入りにくい場所に入りやすい性質をもっています。

光子さんへのアドバイスとしては、前処理のソニルCYSをソニルCAに変えることです。

②の場合、ダメージして水を吸いすぎる髪の毛の部分と硬くて吸わない部分の差が激しくなった髪をできるだけ均一な状態に持っていくにはどうしたら良いかを考えます。先ほど書きましたように、硬い部分を攻撃するのはシステアミンのほうが適しています。したがって、前処理にはシステアミンを使います。それだけでは差はまだ縮まらないですよ。今度はダメージを受けて、水を吸いすぎる部分を水を吸いすぎないように（疎水に傾ける）しなくてはなりません。その場合は中間、光子さんの方法では、1剤をお流ししてタオルドライしたあとで、ソニルCYSをシャンプー台で軽くつけてから、高分子のケラチン（いきいきシード3倍）を毛先につけて揉み込みをしましょう。

それから、キューティクルの枚数も少なくなっているので、擬似キューティクルも作る必要性もありますので、キトキト10倍希釈を毛先につけます。ビビってしまった髪の場合もいきいき、キトキトの処理が有効です。さらに、熱の保護のためにトイジェルエッセンスの高分子シルクをかるくつけましょう。

それから、ドライヤーで50%ドライ、テンションをかけないようにツインブラシなどを使って80%ドライ、そしてアイロンです。ダメージによっては温度を下げるか、紙をはさみましょう。

ありがとうございます。 投稿者:光子 投稿日:2006年5月10日(水)14時06分34秒

デジタルパーマもやはり一つのテクニックなのですね。今すぐ試してみたいけれど、予算が・・・と言う状態なので、まずはディーラーさんにお借りして色々試してみます。

パーマも癖が伸びていると思ったのですが、実はそういうことだったのですね。
先日ご来店されたお客様で（3月まで高校生、4月から社会人）、軟毛、多毛でバックのぼんのくぼからつむじまで特に強い癖のある方だったのですが、毛先3センチに他店でかけたパーマが残っていて、濡れている時ははっきりリッジが出るのに乾くと広がる髪でした。

髪の履歴は自分で夏にブリーチその後黒染め

9月にパーマ・また黒染め。

2月にロレオールからでた酸化染料をメインに分解するブリーチ後カラー・

先日当店でストレートしたのですが、

前処理に3種×3倍・ベータレイヤー・トイトリ+ソニルCYS後加温10分（髪にシスを補うイメージで！？あってます？）

お流し後毛先低還元、根元中間高アルカリ高還元+低還元塗布軟化後 中間の薬を毛先まで伸ばし、軟化確認後流し、軽くシャンプー、ソニルcysをつけ、ブローアイロン

したのですがなぜか毛先が伸びてないです。他の部分はきれいだったのですが、これはなぜなのでしょう。特に癖毛軟毛にしっかりパーマがかかって痛んだ部分は特にストレートが効きにくく感じます。もし何か野村先生のわかる範囲内でいいので、もっといい方法があれば教えていただけますか？よろしくお願いします。

光子さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月9日(火)19時15分0秒

中学のころ、光が重さを持った粒子（光子）であって、真空の容器の中の風車が、光をあてるとクルクルまわるのを見て感動した覚えがあります。

さて、デジタルパーマのメリットとデメリットですね。デジタルパーマは乾いた後でクセができるパーマですので、お客さんのお手入れが楽なのと、細毛のようにウェーブが乾くとなくなってしまいうタイプの毛にはもってこいの方法です。デメリットは光子さんが感じているようにダメージです。理容でよく行う短いパンチパーマのようなものであれば、傷んだ髪は切れればよいのですが、長い女性の髪はそうはいかないですね。ダメージの蓄積が怖いのです。

ただし、髪を保護して施術を行えば、また1剤によって髪を壊さないように工夫すれば、十分な戦力になります。それも1つのテクニックと考えればよいのです。1回目はダメージが目立ちにくいのでお客さんは大いに喜びますが、ダメージ補修をしながら施術しないと、3回目でアウトです。

テンションをかけてカーリングローションでしっかり10分ぐらい高温で加温すると、ウェットとドライの状態があまり差がなく仕上がりのはなぜなのでしょうかという質問ですね。

それは軟毛でテンションをかけて巻くと、髪は全面的にダメージを受けて伸びるからです。テンションをかけないで巻くと、髪の外側は伸びてダメージを受けますが、髪の内側は伸びないのでダメージが少ない状態ですね。セミナーでも話しましたが、髪の外側が水を吸いやすい、内側が水を吸いにくいようなダメージのムラが生まれるのがパーマです。

しかし、今回のケースのようにテンションをかける+温度をかけることで、内面も外面も伸びてダメージを受け、どちらの面も水を吸いやすくなります。したがって乾いても髪の外と内と同じように縮むのでウェーブが残りやすくなるのです。シスでウェーブをうまくかける人のテクニックは適当にテンションをかけることと同じ原理です。シスは優しい還元剤の割りに繰り返すとダメージが大きいですよね。つまり、この方法の欠点はダメージです。

テンションが少ない巻きかたよりも髪はダメージを受けてしまいますので、ウェーブとダメージのバランスをとるために、じょうずにダメージ補修もかねて行わないといけません。不用意に行うとお客さんはパーマのダメージを感じますのでご注意ください。高分子ケラチンを保護のためにも中間で使用すると良いです。

また、還元剤が化粧品グレードのウェーブ剤であれば、テンションと温度を多少あげても、ダメージは少なめです。光子さんがパーマ剤を用いなかったのは正解です。時間があればソニルでも試してくださいね。

コールド式が普通毛用で、加温式が癖毛用と分類する根拠はないです。お薬が弱いので加温式という場合もあります。クセ毛はガツンと強いお薬を使うという考えも間違いです。

質問です。 投稿者:光子 投稿日:2006年5月9日(火)17時46分41秒

いつもお世話になっています。掲示板でいつも勉強にさせて頂いています。
デジタルパーマに関してなのですが、先日カイチさんが書き込まれたように、最近新規で来店して頂くお客様の中に、やはり他店でデジタルパーマをかけられてダメージされている方が多いのですが、野村先生はデジタルパーマに関してどう思われますか？
野村先生が思われるメリット・デメリットなどきかせていただければ今後の参考にと思いまして。よろしくお願ひします。

あとパーマに関してなのですが、癖毛（どちらかと言うと軟毛でバージンOr カラー毛）にパーマをかける時、コールドの薬液で自然放置をすると、ウエットの時はパーマが出ているのですがドライをすると広がるだけのパーマになってしまいますのですが（多分皆さんも経験があるはず！？）、今はそういう方はお店ではしっかりテンションをかけて、パーマ剤を付けて（チオ乳酸系のカーリングローションです。ソニル系ではまだ機会がなく試していないです。すみません！）しっかり10分ぐらい高温で加温すると、ウエットとドライの状態があまり差がなく仕上がります。これはなぜなのでしょう？髪の中でいったい何が起きているのでしょうか？昔参加した講習ではパーマ剤のコールド式と加温式。コールド式が普通毛用で、加温式が癖毛用と聞いたこともありますが、本当でしょうか？僕は認可の問題だと思ったのですが。

質問が長くなってすみません。よろしくお願ひします。

P.S 先日パーマ後にトナーをしたのですが、薬剤は弱酸性で2剤はソニルチオの2剤（1:2~3）を使ったら、より良い感触に仕上がりました。少しご報告までにと！

Toi シャン **きれいになった** 投稿者:MARU 投稿日:2006年5月9日(火)14時48分41秒

焼肉定食さんの書き込みを見て、さっそく家のお風呂で実験しました。石鹼が無かったのでポディソープをつけてゴシゴシ。あまりきれいにならない。お塩のポディスクラブでゴシゴシ。あまりきれいにならない。化粧落としなら落ちるかもと思って付けてこすったら、余計に汚くなりました。

どーしようと思って、トイシャンでゴシゴシしたら、な、なんとスキッとキレイに落ちちゃいました。焼肉定食さんにご報告！！

お風呂の鏡汚れ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月8日(月)18時43分58秒

お久しぶりですね。焼肉定食さんのお休みはこれからですか？

スチームは活発に運動する小さな水の粒子ですので、3分ぐらいでも良く入りそうです。当然時間をかければさらに奥まで入るでしょうね。ダメージがあれば入り方も早くなりますね。

体の油汚れやトリートメントの油汚れでしょうね。

泡立てた石鹼を、鏡にも塗ってあげて、お水で拭いてあげると曇りが取れます。その他にはしつこい汚れなどで曇ってしまった鏡には、歯磨き粉を塗って、お水をかけて磨くといいです。どちらの場合も水分を丁寧にかけて、綺麗に流して下さい。そして、乾いたタオル等で、丁寧に水分を拭き取って下さい。裏技としては紅茶パックで紅茶を作ったあとの残りのパックで、濡れたまま鏡をよく拭いて、タオルでふき取ります。どうでしょうか。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

久々の登場です！ 投稿者:焼肉定食 投稿日:2006年5月8日(月)15時58分43秒

こんにちは！お元気にしていらっしゃいますか？ゴールデンウィークも終わりましたね！

私は、最近まで風邪をひいていました。

早速ですが、質問に移らせて頂きます。

素朴な質問でPPTなどを髪につけてからスチームを使って浸透させているのですが、このときのスチームはどのくらいあてればよいのでしょうか？髪質やダメージによって変わってくるのですか？

もう一つ質問です。

先生も経験があるかと思いますが、お風呂場の鏡が曇ります。これは、蒸気とかの曇りではなくて鏡の表面に汚れがついているような、なんて言ったらいいかわからないのですが。いくら拭いたりしても取れません。これは、何なのでしょう？また、どうすれば良いですか？先生に解決策が分かれば教えて頂きたいです。

気持ちよくお風呂に入るために教えて下さい。

ありがとうございます！！ 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年5月7日(日)10時25分30秒

細かいところまで質問すみませんでした！！

色々試してみます★

ペットボトルのお茶のビタミンCの役割、初めて知りました。

タンニンを酸化させないように頑張ります★★

カイチさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月7日(日)09時08分20秒

システアミンは疎水性の高い硬い髪の部分にも入りやすい還元剤です。パーマやストレートの前処理や染まりにくい白髪の人の前処理トリートメントに使うと施術を楽にしますね。浸透促進とソニルCAのMIXものは、デジタルパーマに向いているかもね。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

ビタミンCの粉末 投稿者:noum 投稿日:2006年5月7日(日)09時00分6秒

ビタミンCの粉末は1リットルぐらいに1回分程度です。

コンビニで買えるDHCのビタミンCは確かカプセルに入っていたように思います。

カプセルをあけて入れれば安上がりですね。

お茶のペットボトルの裏を見るとお茶以外にビタミンCと書いてあるでしょう。これもお茶にシブの沈殿がおきないように入れてあるのですよ。シブの沈殿はタンニンが酸化されて重合することで、大きな分子量になって沈殿します。カラーといっしょですね。カラーもオキシを加えると酸化重合が始まって色素の沈殿ができるでしょう。不慣れでカラー剤を頭に塗り終える前に発色してしまう場合なんかも、ビタミンCを加えればゆっくりになりますよ。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

ありがとうございます 投稿者:カイチ 投稿日:2006年5月6日(土)21時03分31秒

デジタルパーマには多くの問題点があり、しかも深刻であることが分かりました。

それとソニルCAを使って硬い疎水性の場所に入っていくやり方でパーマをかけましたら普段通りのロッド設定で問題なくできました。それに施術時間が短くなりお客様も大変喜んで頂けました。浸透促進原液とCAを混ぜて使うやり方もいろいろ試してみます。

お疲れのところ、度々質問すみません・・・(汗) 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年5月6日(土)19時17分26秒

ビタミンCの粉末の事について・・・

お鍋一杯のお茶に対して、一袋ですよね？

だいたい一袋に何㊺入りか適していますか？

薬局などで買い求めればいいんですよね？？

すみません・・m(_)m 何から何まで質問攻めで・・・
温泉羨ましいです(*^_^*)

カイチさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月6日(土)17時04分58秒

渋滞で混んでいていけませんでいた。代わりに偶然看板が出ていたので美濃の道三温泉というラドン温泉に行ってきました。これは良かった。

デジタルパーマの問題点は1剤でS-S結合を切りすぎることです。そして、その弱った状態(PPTもCMCも流出した状態)で長時間「熱」をあてることです。

デジタルパーマを考える際に重要なのは、1剤の還元とお流し後の空気酸化です。

1剤を洗い流した後にロッドをまいて2剤をつけても求めるウエーブは出ないのに、ロッドを1剤とともにまいたまま、中間水洗したらウエーブが残りますよね。その違いが1剤を洗い流した後にロッドをまくまでの間で空気酸化を受けているということです。

デジタルパーマは1剤でS-Sを過剰に切って、空気酸化で半分以上S-Sが戻った時点で熱をかけてタンパク変性を起こし、ウエーブを固定します。この髪の壊しすぎがデジタルパーマの施術方法の間違いです。数回繰り返して、CMCがなくなった髪に熱で圧迫を加えれば「野口英世の手」になってしまいます。

私は髪のダメージを少なくするためには切って戻す行為を最低限のロスで行うべきだと思っています。過剰に切って、空気酸化で途中ロスしてアイロンや2剤で貼る施術法は、壊す分だけ髪は傷む方法なのです。したがって、理想ですが、過剰に壊さないようにアイロンや2剤でS-Sが戻る分だけ1剤で切って戻すことが、もっともダメージを予防する方法だと理解しています。そのために、1剤の軟化をパーマと同じ程度(ストレートと同じではダメ)にして、1剤を流した後でソニルCYSを髪に浸透させて、空気酸化を最少に抑える方法が良いと思います。そして、熱をかけるときにはCMCを補給することです。

浸透促進の尿素は分子量が小さいので疎水性の場所をゆるめます。尿素クリームをかかとの堅い場所にすり込むと、堅い肌が柔らかくなりますよね。それと同じです。ソニルCAと浸透促進を混ぜるとさらに効果がでます。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

ゆかりさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月6日(土)16時39分12秒

タンニンはカラーの色止めにもなりますので、ヘアカラーの乳化やマニキュアの後処理に用いても良いですね。パーマなら途中で処理すると収れん性でウエーブのリッジが出やすくなります。細毛にはむいているかな。PPTのあとに用いてくださいね。

保存を良くするには、煮出したお茶がさめたらビタミンCの粉末タイプのものを1袋溶かせばよいです。冷蔵庫保管なら1週間ぐらいは持ちます。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

デジタルパーマ 投稿者:カイチ 投稿日:2006年5月6日(土)13時20分32秒

いつもお世話になっています。岩盤浴はどうでしたか？

最近デジタルパーマによるダメージで来店されるお客様が増えてきています。以前にデジタルパーマの問題点で熱をあて続ける事と記憶していたのですが勘違いでしたらすみません。

もう少し詳しく教えて頂けますか。できましたらデジタルパーマについての考えも教えて下さい。それと、浸透促進原液なんですが水素結合破壊能力のウレアはソニルCAのように疎水の場所にも有効でしょうか？よろしくお願い致します。

リマサリ楽しみにしています。

キッチンコスメについて質問です★ 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年5月6日(土)12時39分58秒

しぶに入っているタンニンですが・・・カラーのほかにトリートメントやパーマなどの施術の時に活用できるような方法はありますか？
あとその都度すぐに使用できる保存方法などあれば教えて頂きたいのですが・・・？

あめでとう 投稿者:noum 投稿日:2006年5月4日(木)08時33分18秒

ゆかりさん、良かったですね。おめでとう。
キッチンコスメとって、昔から家庭の主婦が台所にあるものを使って美容に使っていたのですよ。私たちは現在化粧品工業などと堅く言っていますが、基本は身の回りにあるのですよ。ただし、新鮮でないといけないものが多いのです。また、結果を教えてくださいね。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

お休み中失礼します★ 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年5月4日(木)01時46分34秒

成功しました!!!色が入りすぎたくらい入ってました!!!特に難しいはずの毛先の方が!髪は毛自体もしっかりした感じになりましたよ!!
すご過ぎて、店長が「野村マジックだ・・・!!!」と、体の震えをこらえてました^^
色の落ち方の経過を、再来店された時に確かめて、また書き込ませていただきたいと思います
★★ありがとうございました——!!

ゆかりさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月3日(水)07時48分15秒

大丈夫ですが、ポットが茶渋で汚れちゃうかも。頑張ってるね。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

お疲れ様です☆ 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年5月2日(火)21時50分7秒

すすす、すごい裏技ですねー!!!私にはお茶のシブという発想が一生出なかったと思います^^; ちなみに、お店にコンロが無い場合、ポットでお茶つばをわかつた物で大丈夫でしょうか・・・?
ありがとうございます☆☆ぜひまた結果報告させてください!

ゆかりさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月2日(火)18時52分5秒

水曜日ということは明日ご来店されるのですね。
裏技を書いておきます。
スラスカになって色が残らない髪は、同じようにPPTも落ちやすいのです。そこでPPTを髪に吸着させて残したい場合に行う方法を書いておきます。
それはお茶のシブを使います。多目の日本茶を黒くなるまで煮出し、茶こしなどでこしておきます。シブは放置しておくこと沈殿するので、できるだけ作りたてのほうが良いです。水道水に漬けてお風呂の温度ぐらいまで冷やし、シャンプー台などで髪に吸わせたあとでラップ遠赤加温5~10分(お茶パック)します。高圧蒸気でも良いです。次にドライヤーでハーフドライします。そうすると髪にタンニンというシブが吸着します。次にベータレイヤーでイキイキシードを3倍希釈して、フォーマーで泡状にして髪全体に付け、特に毛先は良く握ります。シブはケラチンとくっつきやすいので、いきいきシードの高分子ケラチンを吸着しやすくなります。後は前に書いたように進めます。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

ありがとうございます! 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年5月1日(月)21時58分1秒

超吸水毛だと思います。油分を普通に与えるとおもくなってしまう毛先です。流す前は色は入っているように思いました。でも2回目のシャンプーで完全に落ちてしまいました。

もし何日後に毛先だけ退色したときのことを考えると前頭に濃い色を入れるのはやめておいたほうがいいですよね？線が着いたようにはっきりと入るところが分かれちゃうんです・・・ワクワクをやり始めたところ（中間）は入っているのですが・・・

リセットという結果でお客様には本当に申し訳ないです。いつもTr等を気に入って通ってくださってるのに、、、アドバイスいただいた事を、お客様になるべく分かってもらえる説明をして相談しながら挑戦したいと思います。ありがとうございます！！

本当に助かります！！

ゆかりさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年5月1日(月)19時49分13秒

毛先は超吸水毛ですか？シャンプー前には色が入っていたように思えましたか？

中間は色が残ったのであれば、中間までは髪本来の疎水性の場所が残っているということ。しかし、毛先は色が残らないほど親水化している。

残っているトリートメントが色の入りを邪魔しているのではないと仮定して、親水化した毛先を疎水状態に戻すことを考えましょう。

まず、トイシャン、*水をきる、シャンプー台で特トリを毛先に軽く揉みこむ、タオルドライ、いきいきシード3倍揉みこみ（毛先は握るように）、ヘマヘマ10倍揉み込み（毛先は握るように）、ドライヤーでーフドライ、アルカリカラー+裏技オイル、カラーチェックOK、毛先中心に特トリをなじませる、10倍ヘマヘマをなじませる、少し放置して5倍キトキトで乳化、お流し、トイシャン、シャンプー台でキトキト10倍と少量の裏技オイルを交互に数回髪になじませる、トイトリ、仕上げ というように考えたらどうでしょうか。

もし、毛先が傷んでいるほど水をはじいているようだったら、ポリマーが邪魔をしている可能性があります。その場合はカイチさんが行ったように、シャンプー後にソニルCAとトイトリ3:7で前処理5分、お流しして上の*水をきるから始めましょう。

お客様には「髪は本来丈夫なもので、パーマやカラーを繰り返してもカラーが残らないほど内部が壊れないものなのですが、お客様の場合、特に毛先部分はホワイトブリーチによる内部のダメージに加え、日ごろのシャンプー剤によって、中身のタンパク質が抜けてしまい、スカスカな髪になってしまっています。スポンジにインクを吸わせたような感じで、水で洗うと流れて落ちてしまうのです。お客様の毛先にカラーが髪に残るようにするには、髪から失われたタンパク質や油分を戻しておくことが大切です。一度壊れたものを元のように復元することは無理ですが、少しでも良い状態に髪を補修してあげることができます。とても難しい施術になりますが、頑張りますのでよろしくお願ひします。たとえ上手くいったとしても、傷んだ髪からは補修したものは徐々に抜けていくものです。良い状態を維持するにもデーリーケアが大切ですので、髪をいたわってあげてくださいね。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

ごぶさたしております！！ 投稿者:ゆかり 投稿日:2006年5月1日(月)18時03分1秒

全頭ホワイトブリーチで、毛先にアッシュ系のマニキュアがうっすら残っているお客様が色を乗せたいと、来店されたのですが、カッパー系をのせてシャンプーしたところ、中間は入ったんですが、毛先には全く行って良いほど色が入らず、今度の水曜日にリセットというかたちになってしまいました。濃い色をのせるとすると、毛先の退色を考えたら中間だけしっかり色が残ってムラになりそうです・・・ホワイトブリーチロングでマニキュアが残って傷んでいる毛先にはもちの良いカラーは不可能でしょうか><

お客様への説明の仕方など良いアドバイスがあればお返事ください<_>

お休み前だということにご迷惑かけます・・・

ゴールデンウイークの予定 投稿者:noum 投稿日:2006年4月30日(日)12時34分29秒

MARUさんの質問に答えるのを忘れていました。ゴールデンウイークですね。弊社はカレンダー通りにお休みになります。3日は岩盤浴がある岐阜県中津川の博石館のねころびのもりでリフレッシュする予定です。後は私はお仕事です。

もうすぐリマサリという商品を発売します。スカルプケアと肌ケアの商品（ヘア&スカルプクレンジング、トリートメント、3種のマッサージオイル、スカルプローション、スキンエッセンス、クリームバス）で、ヘッドマッサージなどのテクニックノートも作成中です。ゴールデンウイークも結構仕事をためちゃっていますので、トホホです。最近、自分でヘッドマッサージの練習をしていますので、頭皮がずいぶん柔らかくなってきましたよ。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

よかったですね 投稿者:noum 投稿日:2006年4月30日(日)12時20分3秒

MARUさん、結果がでて良かったですね。

シャンプーカクテルもベータレイヤーを使ったトリートメントカクテルも考え方は一緒ですからね。お客様にサービスでトッピングする場合は5%程度が良いと思います。ヘマヘマのトッピングは泥水みたいで、見た目は悪いのですけどね。施術に使いたい場合は5倍希釈とか皆さんが使われている希釈でうすめてください。PPTとCMCオイルを同時に供給できるので大変便利ですよ。それにベータレイヤーに防腐効果があるので保管が安心です。

シャンプーカクテルのページを下に載せておきました。ご存知無い方はご覧くださいね。

これから暖かくなりPPTの希釈液が腐りやすくなります。一般的には冷蔵庫で保管する方法がありますが、それよりも持つのが80度ぐらいのポットのお湯で希釈する方法（熱湯殺菌）、さらにベータレイヤーミストのように防腐水で希釈する方法があります。今までメールや電話などで防腐の相談は個別で受けていましたが、お問い合わせが増えてきましたので防腐水のお知らせをいたします。

以前より防腐についてご相談があった場合に限り、防腐水の素をリトル・サイエンティストでお譲りしています。あくまで在庫していませんので、お話があってからその分量だけつくります。ご要望の場合はFAX（名前、届け先、電話番号など）にてご連絡ください（0586-62-5350まで・防腐原液1リットル希望とお書きください）。FAXをいただいてから作りますので、納品は少し遅れますが、数日後にはコレクト（代引き）でお届けします。

防腐水の素は濃縮液ですので、使用する場合には15mlをお使いの水1リットルで薄めて使います。すでにご購入されたお客様は2リットルのペットボトル（お茶やお水が入っている）に30mlぐらい入れて、残りを水でいっぱいにして棚に置いてあります。中にはキレイな水差しのビンにいれて、PPTを希釈するときに注いでいます。これでPPTを薄めれば安心して外でも保管できます。お分けしている単位は1リットルで、それによって作ることができる防腐水は約67リットル分です。1リットルで送料・代引手数料込み6400円（税抜き）です。お悩みの方はご利用ください。褐色ガラス瓶でお送りしています。

<http://www.wakuwakuseed.com/newpage28.html>

ゴールデンウイーク 投稿者:MARU 投稿日:2006年4月30日(日)11時13分5秒

うちのサロンでは先生に教えていただいたように、HPのシャンプーカクテルを参考にしてベータレイヤーにしっかりと、さらさら、いきいきのシードやヘマヘマ、キトキトをトッピングサービスしてお渡ししています。大変好評でキトキトのトッピングが大人気です。ありがとうございました。

ソニルCAで毛先のチリツキが出るお客さんがいることをご相談しましたが、先生の言われたように中間水洗しっかりとキトキトと裏技オイルを薄く重ね塗りするキューティクル保護膜つくりをそのあと実践しています。今はソニルCAのウエービングで、前処理でいきいきシード

→3種混合→特トリ→ベーターレイヤーミスト→ウエットでソニルCA(ロッド巻き)→水洗(しっかり)→いきいきシード(ベーターレイヤーで5倍希釈)→ハマハマ→ソニルTIOII(過酸化水素2剤)2回→ロッドアウト→シャンプー台でキトキトと裏技オイルをバームクーヘンみたいに2層処理(2回)→トイトリで仕上げる方法がお気に入りです。最高の質感ですよ。中間水洗を軽くしていたときは若干毛先が散りついてしまう場合がありましたが、しっかりすれば失敗なくなり、すごくキレイにかかるようになりました。中間水洗はとても大切ですね。先生はゴールンウイークはどこかへ遊びに行きますか？

ヘマトコッカスプルビアリス油 投稿者:noum 投稿日:2006年4月29日(土)17時19分28秒

アジアンムーンのオレンジ色は何ですかという質問を受けましたので、詳しく説明します。ヘマトコッカスプルビアリス油は別名アスタキサンチンと呼ばれています。β-カロチンなどと同じカロテノイドの仲間で、サケ・エビ・カニや海藻などの魚介類に多く含まれる赤い色素です。その抗酸化力はビタミンEの1000倍にも達し、「史上最強のカルテノイド」と言われています。つまり血中脂質の活性酸素を抑え、血管を若々しく保ったり、免疫細胞を活性酸素から守ることで免疫力を高めます。またアスタキサンチン自体がガンの増殖を抑制することも知られています。

アスタキサンチンは、活性酵素の中でも特に毒性の強い「一重項酸素」の酸化反応と、体の組織を連鎖的に障害していく「過酸化脂質」の生成を抑制する力が強いことがわかっています。特に、一重項酸素酸化に対してはビタミンEの約500倍、β-カロチンの約40倍、リコペンの約10倍の抑制効果が認められています。熱帯に棲む魚などが鮮やかな赤色や黄色なのはカロテノイド色素によって強烈な紫外線から身を守るためです。

少し専門的でしたが、簡単に言えば髪を紫外線のダメージ(バサバサの髪、カラーの色落ち、ウェーブダウン)から守り、皮脂の酸化を抑えるために頭の臭いの発生を抑えるということですね。皮脂の役割をしっかりとらしているでしょう。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

技におぼれずに基礎をしっかりと。 投稿者:noum 投稿日:2006年4月26日(水)08時26分42秒

シモちゃんの裏メニューのストレートマニュアル(下)にも同様な方法が書いてあります。参考にしてくださいね。ソニルCAやCYSのつけるタイミングは軟化の度合いにもよりますが、カイチさんも行ったように1剤お流し後水気をきってからすぐにつけたほうが良いと思います。この方法は技であり、主は軟化の重視です。軟化を軽視してこの方法を用いると人によっては失敗することもあります。ストレートの基礎をしっかりと身に付けたカイチさんのようなプロが自分の力をアップさせるために取り入れる技です。皆さんにはBBSを読んで自分の技に取り入れようと考えてほしいと思っていますが、基礎は軽視せず、基礎は体でしっかりおぼえてくださいね。

<http://www.wakuwakuseed.com/simomoto.htm>

軟化の重視 投稿者:カイチ 投稿日:2006年4月24日(月)07時44分24秒

いつもありがとうございます。水素結合性のくせ毛の軟化は本当に難しいです。今回の仕上がりにスタッフもお客様もビックリでした。お客様はこんなの初めてと喜んでいただけました。本当にありがとうございます。これからも先生の答えを基に施術していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

カイチさんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年4月23日(日)22時06分7秒

今回カイチさんは、1剤の軟化不十分という失敗をプロらしくすっきりと解決してくれました。

すばらしいですね。ソニルCYSは高分子の結晶性ケラチンとシステインを配合してありますので、還元後の髪の毛の内部の水の吸いやすさのムラが均一に近づいたのです。

軽くシャンプーしたことも、ソニルCYSの髪への浸透性をあげたかもしれませんね。

ただし、基本は軟化の重視です。水素結合性のクセ毛で、従来のやりかたでは伸びにくい髪だとわかっている場合の考え方を書きましょうね。

前処理のシードのなかでしっかりとシードは軟化を抑えますので毛先のダメージ箇所だけにします。トイトリにソニルCYS 2 : 1の処理は、今回のように軟化をしにくい髪であればソニルCA + トトリ 10%でいきます。ソニルCAにしたのは、システアミンのほうが硬い疎水性の場所に入りやすいからです。この時点で10分ぐらいおきます。加温や蒸気もいでしょう。それから軽く一度お流ししてからストレート1剤の順に施術します。普通毛であればお流ししなくてもOKだと思いますが、伸びにくい髪であればI剤をさらに浸透させるためにお流したほうが良いです。軽くシャンプーすることも有効です。使い分けてみてくださいね。

カラー前処理の実験、ありがとうございます。既染部は1レベル上の設定ですね。トイトリ : ソニルCA 3 : 1の前処理は非常に効果的だとわかりました。

縮毛矯正 投稿者:カイチ 投稿日:2006年4月23日(日)18時04分44秒

お世話になっています。先日縮毛矯正のお客様で前回なかなか軟化しにくかったので今回は軟化を重点をおいて施術しました。髪を濡らした後クセがでない水素結合タイプのお客様でした。3種→シード系全部→トイトリにSYSを2 : 1→トトリ→1剤の順に施術しました。

(ダメージはほとんどありません。前回の矯正は1年前にしました)

スチームを8分その後加温を15分してチェックしたのですがやはり軟化せず、クセが場所によって伸びていません。簡単なストレートなのでここで軽くシャンプーをしました。そこでこの掲示板の西郷さんのところで「シャンプーを軽くしたのち水気を絞り、ソニルCYSを通常トリートメントの1/3量つけて馴染ませます。タオルドライしていきいきシードあるいはサラサラシード5倍希釈液を馴染ませます。」を思い出して実行したところ、最後乾かしましたら問題なく伸びていました。普通でしたら1剤のチェック時の状態でしたもう1度1剤を塗布してました。これソニルSYSによるものなのでしょうか？教えてください。

★結果報告★

カラーリング前のトイトリにソニルCAを3 : 1で前処理をする場合の既染部は1レベル上の設定で綺麗に染まりました。

ケミ命さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年4月23日(日)10時06分9秒

メーカーさんの「システアミンの進化型」という説明は、薬剤を分からない営業マンの答え方ですね。システアミンはやはりシステアミンという固有の構造をもった化学物質です。進化したために変わったとしたら、システアミンとは言いません。違う化学物質になってしまいます。システアミンには多くのメリットもありますが、デメリットもあります。すべて克服した還元剤と言い放つのは、使う人に対して傲慢だと考えます。お客様のクレームを受けてしまうのはサロンの技術者ですので、使う立場として正確な事実を正確に理解しておくことは大切です。良い商品であれば自信をもって進めたいものですからね。システアミンはすばらしい還元剤です。ただ、デメリットもあります。特に年配の乾燥肌、敏感肌の人には4月21日に書いたことを施術にいかしてくださいね。お薬は病気を治すためには大切ですが、使い方によっては毒にもなります。それを髪の毛のホームドクターである皆さんは知っているべきなのです。メリットとデメリット、それを知っているからこそ、最大の効果を出せるのですよ。

<http://www.wakuwakuseed.com/>

g-upについて 投稿者:ケミ命 投稿日:2006年4月23日(日)01時34分21秒

早速のお返事ありがとうございます。g-upの成分などだいぶ調べたのですが、僕も高濃度の

システアミンが入っていると思います、先生がおっしゃられたのと同じでアルカリを中和して中性領域で調整してあるとおもいます、アミンの皮膚に対する毒性もかなり言われてきていると思うのですが、このメーカーに尋ねたところ、このシステアミンは進化型だと言われシステアミンのデメリットをすべて克服した還元剤といわれたんですよね。なんなのでしょうか？かなり使える商材だとはおもうのですが・・・。

ケミ命さんへ 投稿者:noum 投稿日:2006年4月21日(金)19時54分3秒

こんばんは。BBSが皆さんの活動にお役に立ててうれしいです。これからもよろしくお願ひします。g-upはシステアミンのカーリングローションみたいですね。想像の域ですので、間違っていたらごめんなさいね。詳しくはメーカーさんにお聞きください。

この商品はおそらくシステアミンの濃度が他のメーカーさんよりも高いのだと思います。システアミンの場合、パーマメントウエーブ協会の自主規制でチオ濃度に換算して2%以下で製品を作るように指導を受けていますので、多くのメーカーさんは高濃度のタイプを進んで作らないのが現状です。システアミンは中性付近ではチオよりも還元する力が強いのと、チオのような過収縮やビビリが少ないのが特徴ですね。分子サイズもチオよりも小さいので、髪に浸透しやすいです。

したがって、濃度がチオの矯正剤のように6%以上の濃度であれば、中性や弱アルカリでも非常によく伸びると思います。詳細はわかりませんのでごめんなさいね。

ケミ命さんは良い結果をだしていらっしゃるようですね。ただ、ご注意すべきこととしては、システアミンはアミンという構造を持っているために、カラー剤のジアミンと同様にアレルギーを起こすことがあります。特に弱酸性や中性付近では、アルカリに比べてアレルギー感さ性は高くなります。アルカリ性で2%付近の濃度であればまったく気にしなくても良いのですが、中性付近で矯正まで対応できる高い濃度であれば少し注意は必要です。できるだけ安全のために地肌にはつけないようにしましょうね。特に年配の乾燥肌、敏感肌の人の場合には気をつけて施術してください。